

示さんと力めてゐる。教育は大に經濟的價值のあるもので、従つてそれが多額の費用を求めるとは當然であることが示される。それは單に裝飾的なものではな  
 5。

報告第六（一八四二年）は日常生活上あまり有用でない、若くは直接有用でない問題よりも、生理學その他の實際的問題が學校に於て研究さるべきを主張してゐる。

報告第七（一八四三年）は、同年著者が試みたヨオロッパ——大英國、ドイツ、オランダ、ベルギー、フランス（パリ）の學校訪問の報告をなしてゐる。彼が興味を感じたものは少くなかつた、殊にドイツに於て、本國で採用してゐると思つたもの——師範學校、口授等——を多く見た。彼が強く嫌つた一事は、パブリックスクールを國教維持のために使用することであつた。

報告第八（一八四四年）はパブリックスクールに於ける最近の改善、共和主義

の成長、女教師數や教師會館の増加、學校に於ける聖書の使用等を論じてゐる。

報告第九（一八四五年）は學校基金の分配、學校の弊害を除く方法を論じ、ペスタロッチの教授法の説明を以て終つてゐる。

報告第十（一八四六年）はマサチューセツツ　パブリックスクールの歴史を論じて、それが元來依立せし偏狭な清教的並に單なる新教的基礎が拋棄されねばならぬこと、及びその範圍を擴張して、共和國の凡ての兒童を收容しなければならぬ何となれば共和國の財産は兒童の道德的及び市民的教育のために抵當にされてゐるからだといふことを示してゐる。それから報告第四に於ける如く、再び彼は學校區制度を非難してゐる。

報告第十一（一八四七年）は社會的及び道德的性質に對する公立小學校教育の價值を論じ、この問題に就てなされた質問に對する經驗ある教師の回答を含んでゐる。

報告第十二(一八四八年)を最後にホレエス・マンは教育局を辭職したが、この報告は『財政を改善し、共和國の知識的及び道德的性質を向上せしむる現在の學校組織の能力』を考察し、さうして彼れの實行したる改革的及び批評的方法に對する理由を與へてゐる。(註三十)

この乏しい概要を一瞥しても、ホレエス・マンが單に市民的教育のみならず、人道的教育の問題を如何に完全に會得してゐたか、またそれを實際的に解決する方法を如何に明瞭に理解してゐたかが分るであらう。次の諸點は彼が特に高調したるものである。

(一) 民主主義の教育は公的であつて、人民の凡ての階級に平等に普及されねばならぬ。パブリックスクールは、富者がその子弟を私立學校に遣つて、それによつて貧者の子弟と分離せしむることのないやうに、どこまでも十分優れたものであらねばならぬ。即ちそれは階級からの解放である。

(二) 教育は科學に基くべきで、教權に依立すべきではない。それは兒童をして自然と文化との事業に直接に接觸せしめ、出来る限り彼等自身の歸納法を作らしむるやうになさねばならぬ。ペスタロッチの方法は眞實のものである。ホレエスマンはヘルバルト、フロエーベル、或はロスマニに就ては何事もいつてゐない。

(三) 教育は眞の宗教を奨励すべきである。併し宗派的偏見から自由であり、また宗派それ自身として教育に干渉してはならない。即ちそれは超自然主義からの脱却である。(註三十一)

(四) 教育は家庭的、經濟的、社會的、政治的生活に對する準備であつて、單に珍奇なる學識、高雅なる學問、或は見榮えのいい上達であつてはならない。教育の目的は道德的及び社會的人格の完成であらねばならぬ。

(五) 教育はやさしく、子供の性質を相當顧慮して授けらるべきである。凡て手荒いことと體刑とは出来るだけ避けなければならぬ。

(六) 教育は、よき圖書館と、新方法に従へる有効な教授に必要な一切の器具とを有する、建て方や換氣法のいい學校で行はるべきである。

(七) 教育は、教授をもつと自己の天職となす十分熟練したる有能の教師の手で行はれねばならぬ。この目的のために、彼等を特別に訓練する師範學校が設けられねばならぬ。アメリカの師範學校はホレエス・マンのお蔭で存在することになつた。

(八) 學校は男子同様女子にも開放され、(註三十一) 教師の職業は男子同様女子にも開放されねばならぬ。

(九) 教師は會館や會議に於て討議や相互獎勵のための會合の機會を屢々得なければならぬ。

(十) 凡てこれ等のことを可能ならしむるために、國家は費用を惜んではならぬが、またその財産をその市民教育のための委託物と考へねばならぬ。

ホレエス・マンはこれ等の諸點の或るものを、あまりに重視し、また或るものに於て彼は誤つてゐたかも知れない。彼れの「實際的教育」といふ觀念はあまりに狭く、彼が師範學校の價值を信ずることは大げさであるかも知れない。けれども全體として見れば、アメリカの民主主義及び人道の要求せる教育に關する彼れの理想は正しくあり、それを實現するために彼れの求めたる方法は有效なものであつた。このことの實證として、彼れの主張したる改革が凡て、少くとも大部分非常に有効に既に實現されたといふ事實以上にいいものはない。高等程度の國家教育は殆ど普遍的になつて來た。それはますます科學とペスタロッチの方法とに基いてゐる。獨斷的教授は殆どそれから排除されてゐる。その主なる目的は諸般の生活に適應せしむることである。それはますます穩和な人道的方法に従つてゐる。校舎は彼れの希望以上に改善されてゐる。師範學校は多數設立され、國家と都市とに有能の教師を供給して來た。國家教育の利益は凡て男女兩性に等し

く開放されてゐる。過半数の教師は婦人である。教師の會館や會議は殆ど無數である。合衆國が教育に費したる總額に比較すると、他國のそれは殆どいふに足らぬまで僅少である。ホレエス・マンはアメリカの教育の父であるといつても過言ではない。

けれどもその教育は既に遙かに彼れの主張以上に進んでゐる。彼れの夢想もしなかつた幼稚園は到る處に簇出して、教育の眞の方法の實例を示してゐる。

「兒童研究」は科學となりつつある。學校、コレヂ及び大學は魔術の如くに設立される。最早アメリカは全ヨロッパ以上に多くの高等教育の學校を有してゐる。女子のコレヂは、第十九世紀の初めに於ける男子のコレヂよりも多數である。否、後者の一層進んだ學校に於ては、女子にその門戸を開放してゐる。(註三十三)

かくの如くして合衆國の教育状態と精神とは、満足と誇りと希望とを以て見ら

るべき十分の理由がある。それは民主的である。それは科學的であつて、教權と教義との束縛を速かに振拂つてゐる。それは宗派的偏見と混亂とから免かれてゐる。就中それは自由のための教育であつて、服従のための教育ではない。これまでも、それは人類的教育の最高の型である。他國は多くの障害あるに拘らず、アメリカの教育の發展のためには著しき貢獻をなさずして、却てその教育を漸次模倣しつつある。それがなほ改善すべき餘地あることに就ては、これを次章に見よう。(註三十四)

(註一)それ以後の文學に及ぼせるルソウの教の影響に就ては、予(著者)の“Rousseau,” pp. 211-244 參照。

(註二)彼はいふ、「予は決して口に出す勇氣を有しない多くのことに就て甚だ明白な確信を有つてゐるが、併し予は思考しない事柄を口に出すやうなことは決してしない積りである。」

(註三)予(著者)はこゝでは讀者がカント哲學に或る親しみのあることを假定してゐる。もしこのことが馬鹿な假定のやうに見えるにしても、カント哲學の知識なくして、現代の教育的運動と要求とを理解

することは不可能だといふことだけはいつて置きたい。

(註四)ヘーゲルの「復古哲學」はボッネ及びシアトゥプリアンのカトリック主義の如くに本質上全く反動的である。カトリック主義が確かに傳統と教權との原理のままに留つてゐることは、いふまでもないことである。

(註五)内容なき思想は空虚であり、概念なき直観は盲目である。——カント「純粹理性批判」。

(註六)自然 (poiesis, yfesis, natura) といふ古代語が凡てこの意味を有することを記するのは興味がある。吾々の近代語たる進化 (evolution) と發展 (development) とは誤つた意味を含んでゐる。生長 (Growth) は單に機械的開展ではない。

(註七)ルソウは普通教育に反對したけれども、人民の生活に強く同情したから、それによつて普通教育に非常な貢献をしたといつて差支ない。

(註八)それは確かに鞭打たれて促進されるのである。數年前予(著者)はカイロの "Waqf" 學校に於て、十四五才の多數の少年が、新約全書ほどの長さを有するコーラン全體を誦讀し得るのを見た。

(註九)このことは予(著者)自身の記憶にある。

(註十)鞭打ちはつひ近頃までも行はれたが、その程度は今日信じ難いほどである。予(著者)は、子供が學校で毆られないために、不平をいつてゐる父を知つてゐる。

(註十一)君は、眼前に認むるこれ等の人々が如何なる心靈なるかを問はない。君が更に一步を進める前

に、彼等は先づ罪を犯してゐないことを知つて欲しい。で、彼等に長所があらうとも、君の信ずる信仰の一部分である洗禮をなさなかつたから、彼等はまだ十分ではない。さうしてもし彼等がキリスト教以前に生活したとすれば、彼等は神を正當に崇拜しなかつた。予自身(ヴァーゲル)これ等の人々と同じものである。他の罪のためではなくかかる缺點ゆゑに吾々は見捨てられた。さうして當てもなく祈願しつゝ生活する位まで惱まされてゐる。この光景に對して近代の作家カアザナル・ニューマン、ヘンリー・ドラモンド等から容易に取合はせることが出来る。

(註十二)ハイニンリツヒ・メスタロツチ (Henrich Pestalozzi) は一七四六年チューリツヒで生れた。一七五一年父を失ひ、一七六五年から七五年まで農業に従事し、一七七五年から八〇年までノイホーフの彼れの農園に於て貧民の子供のために小學校を經營し、一七八〇年から八七年まで教育に關する評論家となり、一七八七年から九七年まで再び農業に従事する。一七九二年にはワシントン及びクロプストツクと共にフランスの市民となり、一七九八年から九九年までスタンツに於て孤兒院を經營し、一七九九年から一八〇二年までアルグドルフに於て學校を經營し、一八〇三年パリ訪問、一八〇五年から二四年までイフェルドンに於て中學校經營、一八二四年ノイホーフに歸り、一八二七年死亡した。

(註十三)ヨハン・フリードリツヒ・ヘルバルト (Johann Friedrich Herbart) は一七七六年オルテンブルクに生れ、一七八八年オルテンブルク・ラテン語學校に行つてリオルフの哲學を研究、一七九四年エナ大學入學、シルレル及びフィヒテを知る。一七九六年フィヒテの見解を棄て、一七九九年から九九年までイ

ンターラーケンに於て私教師となり、一八〇〇年エナ、一八〇一年ブレイメン、一八〇二年ゲツチンゲンに返り、一八〇九年ケーニヒスベルグでカントに代つて講座擔任、一八一一年メリー・ドレエクと結婚、一八三三年ゲツチンゲンに歸り、一八四一年死亡した。

(註十四) 實際彼は近世經驗的心理學の父といはれ得べく、フェヒナー、ゲンツ等は彼れの弟子である。

(註十五) フリードリッヒ・ヴィルヘルム・アウグスト・フロエーベル (Friedrich Wilhelm August Froebel) は一七八二年チューリンゲンのオーベルワイスマッハに生れ、一七八三年母を失ひ、一七九二年まで殆ど教育を受けなかつたが、同年シタットイルムの學校に通學、一七九七年林務官に奉職する。一七九九年エナ大學に入學して失敗する、一八〇一年ヘルドブルグハッセンで農業研究、一八〇二年父を失ひ、一八〇二から五年まで林業に関する種々の官職を奉じ、フランクフルトに於て教師となつて教授法に専ら意を注ぎ、一八〇五年イフェルドンにメスタロッツを訪問、一八〇七年ルソウ流の私教師となり、一八〇八年生徒をイフェルドンに連れて行つて、二年間滞在し、子供の遊戯を研究し、一八一〇年フランクフルトに歸り、一八一一年から一二年までゲツチンゲン大學に通學、一八一三年ベルリン滞在、一八一三年から一四年まで兵士となり、一八一四年から一六年までベルリンの帝室博物館にて研究、グリースハイムに行つて、小屋で「汎ドイツ教育會館」を開き、一八一七年會館と共にカイルハウに移り、一八一八年シュライエルマツヘルやフイヒテの弟子であるヘンリーター・ヴィルヘルム・ホフマイスターと結婚、一八三六年「人の教育 (Education of Man)」出版、一八二九年彼れの會館は攻撃されて破滅し、一

八二九年から三二年までスキスに於て仕事を求める。一八三二年カイルハウに歸り、一八三五年ブルグドルフに移つて、孤兒院長に任命され、「幼稚園」を思ひ付き母の教育に對する計畫を工夫し、一八三六年メルリンに轉じ、一八三七年ブランケンブルグに於て、「幼兒育成會館」(Institution for the Nature of Little Children)を始めた。一八三九年妻を失ひ、一八四〇年「幼稚園」(Kindergarten)の名稱を發明し、一八四三年「Mutter-und Kose-Lieder」出版、ブランケンブルグを去つて、一八四四年から四九年までドイツの諸地方にて講演し、一八四九年リーベンシュタインに居を定めて會館を開き、一八五〇年マリオンタールに移り、一八五一年ルイゼ・レヴィンと再婚、一八五一年プロシヤに於て幼稚園は社會主義の嫌疑で禁ぜられ、彼は無神論者なりとの非難を受け、一八五二年死亡した。

(註十六) アリストテレエスによれば、人間の幸福と完全とは、最高にして顯著なる能力即ち理性が實現若くは勢力化 (Empower) される所に成立つと主張したが、この見解は、中世紀に於て實行に反對するものとしての沈思といふことが高調されたに對して大責任がある。フロエーベルは、人間の幸福と完全とは全人類の進化に於て、凡ての人間の能力の進歩的及び調和的實現に存すると主張してゐる。

(註十七) 傾向はそれが或種の満足を得るまでは、決してそれ自身を示さないものだと言(著者)は信ずる。(註十八) フロエーベルが、それでいて、子供は生來善であると主張したのはなつかしい。これはルソウ流の感傷性の一片鱗に過ぎないので、彼れの神秘主義と一致してゐる。生來善であり或は惡であるものは何もない。兩者は道德的、後天的の屬性である。

(註十九)例へば、彼等の食するパンを、種々の過程を経て、元の種子に至るまで廻り尋れしむる如きである。

(註二十)アントニオ・ロスマニーセルバチ (Antonio Rosmini-Serbatì) は一七九七年チロルのロヴェレトオに生れ、一八一七年から二二年までパツアにて勉強、一八二〇年父を失つて財産を相續し、一八二一年僧侶に任ぜられてロオマ訪問、一八二〇年から二六年まで家庭にて勉強、一八二五年「慈善婦人」(Daughters of Charity)のために會館建設、一八二六年から二八年までミランに滞在、一八二八年ドモドツサラに於て或る宗教教團を設立に着手、一八二八年から三〇年までロオマに滞在、一八三〇年から三四年までドモドツサラに滞在、一八三四年から三七年までロヴェレトオに於て僧侶となり、一八三七年ストレサに隱退、一八三九年彼れの會館 (Brothers of Charity) は法王によつて認可され、一八四八年ヒードモントの使節として法王訪問、一八四八年法王の牧師職の總裁を辭退し、一八四九年ストレサに歸來、一八五一年から五四年までのうちに、彼れの著作は「檢索常設委員會」(Congregation of Index)の取調べを受け、結局皆なきものとして許され、一八五五年死亡。

(註二十一)彼れの主なる教育學上の著作、『Il Principio Supremo della Metodica e di alcune sue Applicazioni in Servizio dell' Umana Educazione』は断片的なもので、児童生活の第五年以上に及んでゐない。けれどもそれは彼れの全學說を含んでゐる。それは一八三九年から四〇年までに書かれたけれども、彼れの死後二年即ち一八五七年に至るまで出版されなかつた。それは注意深き博大な兒童研究

に基いてゐる。マリア・グレイ夫人の英譯がある。(Boston, D.C. Heath & Co.) 第二卷には小論文が含まれてなり、その中の主なるものは(一)キリスト教教育、(二)教育の統一、(三)教授の自由である。

(註二十二)勿論、最初の思想の内容は區別されない感情から成立つてゐる。思想の作用は區別である。

(註二十三)それは多く新教徒のホカー・ド・サウシル婦人(1765—1841)から借りてなり、彼はまたルソウとメスタロッチに多く負つてゐる。彼女の著作『L'Education Progressive, ou Etude du Cours de la Nature Humaine』(1836-38, 3 vols)は、これまで書かれた教育書中の最も眞面目なるものの一つであつて、もつと注意されるべき價值を有してゐる。

(註二十四)近代思想に忠實ならんとした結果は、彼れの教義の四十だけは、近頃教會から異端説の臭味あるものとして咎められた。

(註二十五)ホストン・ラテン語學校は一六三五年、ハーヴァード大學は一六三六年、義務的小學校は一六二二年に設立された。一六四七年マサチュセツ州に八つのラテン語學校(或はグラムマー・スクール)があつた。「グラムマー」と「ラテン」とは、今日スコットランドに於ける如く、當時同意義の言葉であつた。

(註二十六)ヘンステールの『Horace Mann and the Common School Revival in the United States』から拔萃。

(註二十七)ホレエス・マンの先輩に就てはヘンステールの前掲の書に記述されてゐる。

(註二十八)ホレエス・マン (Horace Mann) は一七九六年マサチュセツ州のフランクリンに生れ、一八

○六年カルヴィン派から斥けられ、一八一六から一九一年までブラウン大學に通學、一八一九年から二一年までアラウンにて私教師となり、一八二一年から二三年までコンネクチカット州のリッチフィールドにて法律研究、一八二三年から二七年まで辯護士となり、一八二七年から三三年までマサチュセツ州の州議員となり、一八三三年から三五年まで上院議員となり、一八二七年から四八年まで新設教育局の書記官となり、一八四八年から五二年まで下院議員となり、一八五三年から五九年までアンチオク大學の總長となつて、一八五九年八月二日死亡した。

(註二十九)校舎に就ては特に追加報告の中にも論ぜられた。

(註三十)ヒンスデールの "Horace Mann," pp. 160-180 から要約した。

(註三十一)ホレス・マンは學校から宗派心を取除く以前、それと烈しい戦をした。けれども結局成功した。さうしてそれを取除くことによつて、教育を教權の手から奪取して、科學の手に置いた。

(註三十二)一七八九年までボストンのパブリックスクールに女子の入學を許されず、それ以後も男子と共學は許されなかつた。第十九世紀の初期の女教師の標本は、アン・ナイト夫人の「旅」(Journey)に見られる。

(註三十三)オパーリンはそれをした最初のものであつた。ホレス・マンの管理の下にあつたアンチオクは、オパーリンと違ひ、男女兩性に對して學科を同一にして、女子を收容した。

(註三十四)予(著者)がハーバート・スペンサーの教育書に就て何等言及しなかつたのは、奇妙に思はれる

がも知れない。けれども事實は、彼れの書中眞理と思はれる獨創的なものは何も見出されず、一方その倫理的原理は明かに反駁すべきものである。

凡ての恩惠の第一のものは、權威にあらざして自由である。これは予の根本的標語である。

ル ソ ウ

通俗となるべき筈の何等か科學的のものが必ず存在すると予は思ふ。さうしてそれは常に眞理に屬する所のものである。

ロ ス ミ ニ

市民の義務に就ての研究が、他のあらゆる研究の基礎たられなければならない。

チ エ ル ゴ ー



## 第四章 大観

吾々は今や最古の時代より現時に至るまでの教育の進歩を簡単に討ね、さうしてそれは、人類以下の世界全體が支配されてゐる無意識的進化から明確な分界線によつて別たれない意識的進化であることを知つた。それが超自然主義と權威とに起り、さうして徐々に困難なる過程を経て、自然と自由とに發達することを知つた。それは實際的知識の發達と共に發達し、あらゆる場合に於て現行制度の下に於ける生活の準備であつた。暴政の行はるる處では、それは暴政と束縛とのために教育し、自由が勝利を得たる處では、自由のために教育した。最初それは主として超自然のことに従事せる少數の恵まれたる人々に限られたが、漸次多數の人々にその恩を及ぼし、遂にアメリカに於ては實際上普遍的である。(註一)

さてここで最高の賞讃に價する多くのことがなされたけれども、なほなさるべき

き多くのことが残つてゐる。さうして吾々は今、本書を閉づるに當り、ひたすら自他の尊嚴を保持せんことを欲する大民主主義の要求に應じて、教育が十分その任務を果し得る以前、なされねばならぬ多くの改善を指示することが最も適當なる方法であると考へる。これ等の改善は(一)教育される者、(二)教育の目的、(三)その材料、(四)その方法、(五)その範圍、(六)その教師に關するものである。

(一)「兒童研究」は既に著しき進歩をなした。けれども従來は兒童の能力及びそれを發達せしむる最良の方法の問題に限られてゐた。これ等の點に就てもなほなさるべき多くのことが存するけれども、併し兒童とは何ぞやといふ更に根本的な問題に關しては全く手が着けられてゐない。兒童は肉體の消滅と共に亡びる果敢なき感情と意慾との單なるあつまりであらうか。それとも彼は無限の事業を有する永久的存在であつて、彼にとつては肉體は單なる一時的機關であり現象の特殊のあつまりであらうか。依然として古き超自然主義と權威とに執着する人々は普

通後者の見解を採用し、然らざる人々は大部分前者の見解をとり、若くは問題を全く無視する。兩派は、兒童は科學によつて解決され得ないと假定する。従つて解答を飽くまで要求する人々は兒童に對し權威を以て臨むので、この權威といふことは自然多くの人々を捕捉することが出来るのである。

さてその性質も運命も解らない所のものの教育に時間と精力とを費すのは、確かに馬鹿げたことである。これ等のことを知らないでゐて、吾々の凡ての努力は空しくもない、若くは有害でもないといふことが、どうして解り得よう。敬虔なる聖者セント・アウガスチンの如きすら、「無教育者が天國を有す」と信じたが、(註二)實にこれは中世紀を通じて大に行はれたる意見であつた。この點に關してはいつもの如く答へられる。——如何なる場合にも事實はその通りである、吾々は人間の性質と運命とを知らず、また知ることが出来ない、従つて「憶測して意見を立てる」(註三)ことに満足し、それから全力を盡さねばならぬ。けれどもそれ

は最も落膽的な態度である。幸にしてそれは必然的のものでなく、それは單に、權威に對する卑屈な依頼であり、それで以て吾々を満足せしむる吾々の心的怠惰であるに過ぎない。人間の精神とその活動との注意深き研究は、これがその性質上永久的であり、時間空間を超越し、従つて自由であるといふことに何等の疑ひを残すことは出来ない。兎に角にこの問題は教育者側の最も深き研究を要するもの一つである。それに關して明確の點に達しないでは、彼等は彼等が正しきことをしてゐるのだと確信を得ることが出来ない。(註四)

(二)教育の目的は、既に述べたる如く、開化したる、親切な、役に立つ、さうして高尚な社會生活、(註五)即ち沈滞なく絶えず進歩する生活をなすべき動機を兒童に與ふるやうな世界を、兒童の意識のうちに構成することである。さてこの目的は現在未だ十分に達せられてゐない。これまで吾々の教育が兒童の精神のうちに構成したる世界は大部分、斷片的で想像的でひねくれてゐて、科學の斷片から

成り、迷信の殘部を點綴し、華々しい想像のお蔭を蒙れるものである。科學によつて明かにされ、哲學によつて解説せらるる進化の統一世界を兒童精神に實現する企圖は從來あまりなされなかつた。而もそれが教育の最高の任務である。それが完成されるときのみ、人々は合理的な注意深き生活を送り、崇高な目的と、それに達し得る確信とを持することが出来る。凡て眞に道德的な理性に導かれる生活の第一條件は、眞の世界觀 (Weltanschauung) である。何となれば理性は世界の秩序に外ならず、道德的生活はかかる秩序に従へる生活であるからである。書物の上の研究に反對するものとしての自然研究は今日の教育上の警語であつて、それはいい。併し自然は文化を包含するやうになされねばならず、さうして全體は、絶えずより高き獲得に進歩する所の相互作用的精神の一つの聯絡ある宇宙的過程と看做されねばならぬ。全體に就ての教授が教育の任務である。

(三)教育の材料は、知得される、愛すべき、變改される全宇宙である。この材

料をその詳細の點にまで知ることは、假令それが吾々の達し得られる範圍にあるとしても、一人の心の力の及ぶ所ではない。それゆゑ教育がそれを授くる企圖をしないからとて、吾々は不服をいふことは出来ない。けれども進化の一般圖式及び進化とそれの種々の状態及び作因との關係、またそれ等相互間の關係の一般圖式は、教育によつて把握され得べきものであり、まづ授けられねばならぬものである。各人が天文學、鑛物學、化學、生物學、若くは社會學を凡て詳細に知らねばならぬ必要はないけれども、これ等の學問及び他の一切の科學の根本原理と範圍、並に進化過程に於けるそれ等相互間の關係を知るべきである。その上經驗上の言葉で全體を如何に解説するか、またかくして不可思議論と獨斷主義との陷穽から如何にして免かるかを知るべきである。さて現時の教育はこの理想實現の域からは遙かに遠ざかつてゐる。それは合理的生活の條件としての三方面を有する世界に就ての全見解を授ける如き企圖をしてゐないやうに思はれる。これ等の

點から見て教育事業は未だ斷片的である。これは宇宙に關する連絡ある知識を授けない。また事物と過程とをそれ等の意欲の順序に、即ち精神的目的に對するそれ等の價値の順序に排列しようとしなない。なほまた世界を精神の目的により多く役立たしむるために、如何なる手段によつて意志が漸次世界を變改せしめ得るかを示さない。かくの如くして兒童は如何なる方法によつても、自身と大なる世界とを同一視するやうに教へられない。それゆゑ彼等はいかかるとも同一視から生ずる不思議な靈感を缺くのである。世界は彼等には個々のものの集團たるにとどまり、それ等相互間の關係と協力とを知らず、終つて彼等は一切を抱擁するやうな進化の大戲曲の前に立つて、それを理解することなく、その戲曲中の彼等自身の位置を認めないのである。して見れば世界が多くの人々にとつて興味なく、人生が非戲曲的で、狭苦しく、わびしきものであるといふことが不思議であらうか。

今日教育を「實際的」たらしむることに關して、民間では盛んに談じてゐるが、

それは大抵の場合、教育が人々をして十分なる生活をなさしめ得るやうな教授に主として限らるべきであるといふことを意味してゐる。けれども確かに、生活は食物以上であり、肉體は衣服以上である。もし生活そのものが狭隘で、存在の大戲曲に意を留めず、歴史の大運動に興味を感じないとすれば、生活の必需品が何であらう、物質的贅澤品が何であらう。社會主義や父權的法律やその他の疑はしき同様手段によつて、いはゆる下層階級の物質的慰安を保障せんと試みることによつて、彼等が高めんとする努力は、人性に就て全くの誤解を含んでゐる。先づ彼等に博大なる包括的人生觀と、それより生ずる靈感とを與へよ。さすれば物質的慰安の如きは彼等の關する所でなくなるであらう。人生の大戲曲を一度よく瞥見すれば、魔窟と競技場との凡ての快樂慾を消滅せしむるであらう。吾々はその肉體を養ふ努力に、その靈魂を餓死せしめ、徒に豚の食する外皮を渴望せしめるに至る。最も眞實なる實際的教育は、靈魂のうちに思想、愛及び德行から成る最

も麗はしき世界を創造せしむる高尚なる行動に、最も多くの最も強き動機を與ふる所のものである。人々は弱く、罪深く、貧しきものである。それといふのは、彼等がその反對となるべき動機を缺くからである。それゆゑ彼等にこれ等の動機を與へよ。かくして弱き、罪深き、貧しき姿は地上から消失するであらう。

(四)第十九紀の後半に於て教育の方法を改善するために甚だ多くの努力がなされ、ヘルバルト、フローベル及びロスミニの力によつて眞方法が発見せられたけれども、吾々の教育の多くはなほ依然として舊方法を襲ひ、若くは全く其方法である。實に、方法に關する根本問題の間はるゝのも稀れであるが、まして答へらるゝのは更に少い。さうしてその根本問題とは、人類の活動が豊富な調和的世界の中にそれ自身をさまざまに發達せしめ、かくして廣濶なる道德生活に向上し得るために、それが如何にして、また如何なる順序によつて喚起さるべきかといふこととこれである。幼稚園は全力を盡してそれに實際的答辯を與へんとしてゐる。併

し幼稚園ですら、上述の如く遺憾の點が多い。これに反してそれ以上の學校は大抵の場合この問題を全く無視して、彼等の仕事から生ずるであらう所の世界に就ては何の考慮も拂はず、古い斷片的方法をとつて進んで行く。否、それ等の多くは依然として中世紀の方法と理想とに妨げられ、(註六)若くは専門的生活に適せしむることをその主要目的たらしめてゐる。ロスミニの「知解」(intellection)の諸段階及びそれ等と意志活動との相互關係には、更に一層注意が拂はれてゐない。「研究の關聯」に就ては多く語られるけれども、それは凡ての研究の結果といふ見地から行はれないがために、一定の歸決を得るに至らない。實をいへば、幼稚園ですらそれをアメリカの状態に適せしむるためには、かなりの變改を必要とする。(註七)さうしてその様に變改されたとき、その方法は適宜の順應によつて、あらゆる程度の教育に齎らされ、全體に計畫と目的との統一を與へる事にならねばならぬ。一方は文化、他方は博學及び専門的訓練、この兩者の間に明確なる區別を立て

ねばならぬ。前者は凡ての人の關與すべきもの、後者は當然個人並に各階級に限らるべきものである。さうして一定の目的を有する一計畫が幼稚園より大學に至るまで擴大せねばならぬばかりでなく、あらゆる幼稚園、大學及びその他の學習施設が、民主主義に適する市民の教化のために、一大段階的作用をなすべく自由に結合すべきである。中央政府の所在地が、學問の中心點とならねばならず、教育局は權威を弄することなくして、中央政府の最も有力なる一省たるべきである。實にそれは獨立せる省にされねばならぬ。國家的見地から見ても、教育は確かに、既に一省となつて、一大臣を有する農務省と同じ程度に重要なものである。(註八)人間の教化は正しく植物及び動物の培養と同じ程度に重要なものである。後者は手段、前者は目的である。

(五)教育は如何なる程度まで普及さるべきであるか。この問題は二様の意義を有する。即ち如何なる深さにまで達すべきであるか、若くは人民の如何なる階級

を包含すべきであるかといふことである。さうして教育が凡ての階級を包含すべきであるといふことを是認して、次のやうな意味にとることが出来るであらう。即ち教育は人民の種々の階級の各々に於て如何に深く達すべきであるかである。吾々はこの最後の意味に於てそれを、否寧ろその一面を考察しようと思ふ。

人間が異なる素質と趣味とを有する限り、異なる階級に對して異なる教育程度が存在するであらう。その上貧富の差の存する限り、富者の兒童が貧者の兒童よりも高き教育を受くることの容易なるを發見するであらう。貧者はグラムマースクール若くはハイスクール以前で中止するであらうが、富者はコレヂ或は大學にまで進むであらう。かくの如く教化の區別は大抵貧富の差異と一致するであらうし、また屢々あるやうに、富者が民主主義の原則に不忠實でその子弟を贅澤な、從つて排他的な私立學校へ遣り、貧者が公立學校で以て満足せねばならぬならば、この區別は強められるであらう。さてこの最後の事實は悲むべきであるけれども、その

一般状態を變へることは不可能である。高等教育を欲せざるものにそれを強制することは出来ず、貧者は富者の利益を悉く有する譯に行かない。けれどもこれに關して、各州によつて代表されてゐる國家は、一人の市民も、常に社會の脅威となれる厄介な窮民若くは不満ある無能力者とならないやうに、またあらゆる市民が市民としての義務と特權とを十分理解し、義務を履行しながら特權を要求する準備をするやうに、かかる程度に市民の凡てを教育することを要求する義務を有するのである。けれども國家はこれまでこの點に關してその義務を履行しなかつたことは十分明かである。殆ど到る處になほ多くの無能力、貧困、不満、並にこれ等から生ずる墮落と危險との諸形式が存在し、さうして多數の人民は市民としての義務も特權も知らずして、容易に利己的な政治家の餌食となる。その政治家たるや彼等の最上の利益に反する勸告をなし、社會と國家とに最も危險なる力を彼等から與へられるのである。もしアメリカが名目上以外に於て民主主義たるべ

きであるならば、よろしくこの状態を改むべきで、而もそれをするには民衆教育以外に何物もあり得ない。この教育は二形式をもたねばならぬ。即ち(一)生計を立てて、貧困とそれの一切の禍とを避けんとする訓練と、(二)教育を受くるものをして市民としての義務を盡さしめ、また單に自任的所有者の屠牛場に於ける「點々として追はれて行く家畜」たらしめないやうな市民的教化とである。

吾々の教育制度に、常に滅盡的地獄たらんとしつつある大缺陷の存するのは事實である。否、最も切實に必要な教育が與へられてゐないとさへいはれ得るであらう。吾々はただ暇人だけを教育する。學校に於ては兒童を、コレヂと大學とに於ては、兒童よりも遙かに人生を知らない所の青年男女を教育する。早くから「仕事に行」かねばならぬ人々、——また早くから「人生第一の必要と苦悶」とを知るに至つたればこそ眞の教育に最も強く感動される人々の大團體は、(註九)大抵、前途の見込みなき、狹隘卑賤な世界に於て醒醒し、無法な利用者の道具とな

つて、不遇に陥るの外はない。これ等の人々のために、否、全人民のために、吾々は教育の恩恵を彼等に及ぼさねばならぬ。吾々の公共教育の方針は、現在の制度を補ふに労働者のための夜学校とコレヂの全組織とを以てするのでなければ、それは決して完成されもせず、その全力を盡したこともならないであらう。さうして夜学校は、適当な程度の労働と相應な生計に償するものとを以て彼等を社會に出し得るやうな熟練を與へ、コレヂは彼等のために自然と文化との大世界の寶庫を開き、彼等をして家族、社會及び國家の一員としての本分を有價値に盡さしめ得るのである。

幾つかの州が既に多くの經費のかかる公共學校制度に、多分等しく經費のかかる他の制度を附加すべきことを暗示するのは、一見すれば、確かに贅澤に見えるであらう。併し少しく反省すれば、この印象は直ちに消失する。先づ第一に、教育は贅澤なものではない。それはホレエス・マンがずつと以前示した如く、常にそ

れに拂はれてゐる以上に遙かに價値あるものである。教育ある各市氏は國家にとつて財寶であり、黄金や金剛石の堆積以上に遙かに價値あるものである。教育は力であり、無知は弱味である。アメリカが今日諸國民の間に於て高き地位を占め得るのは、その人民の教育に負ふのである。第二に、教育は國の平和を亂し、國の存在を脅す所の國內の禍害——労働爭議、サルーン政治、魔窟、貧民窟の生活等——を除き得る唯一のものである。これ等の禍害の存在するのは、人民の大部分のために、大運動の世界、高尚なる趣味とその享樂との世界を開いてやる教育が缺けてゐるために、彼等は勢ひ狹隘卑賤な生活、さもしいよからぬ趣味に身を投ずべく定められてゐるからである。吾々は彼等に人道の精神的財寶を襲がせない。吾々は彼等を野卑、下賤、汚穢及び不満の徒であると定めて置いて、而も彼等は何故に野卑で下賤で汚穢で不満の徒であるか——さうして反抗的であるかを不思議がる。吾々は彼等のために文化生活の凡ての高尚なる喜悅を不可能ならし



めて置いて、而も彼等は何故に野卑な娛樂をよろこぶかを恠む。吾々は彼等を社會的及び經濟的生活の眞の原理に無知ならしめて置いて、さうして彼等が社會的及び經濟的山師のために誤らされるのを訝る。吾々は彼等に投票の價値を教へないで置いて、さうして彼等がそれを一杯のウスキイのために賣つてしまふのを見て愛想をつかす。吾々は彼等を教化して道德的獨立を得しめないで置いて、さうして彼等が黨派的政治家の奴隸たることに批難を加へる。吾々は彼等を高尚なる動機なしに放任して置いて、さうして彼等が下等なる動機に支配されるといつて輕蔑する。吾々の無能な馬鹿さ加減に、安價な快活の漂ふ花やかなサルーンを、行き馴れたカフェーや、物靜かな書齋や、介添附きの休養室やによつて相殺せんとする。さうして吾々はこれ等の者は何故にかくも彼等の興味を惹起させないかを不思議がる。——それは恰も僅少の蠟燭を輝かす事によつて、大火の眩光を照り負かす事が出来るかの如くに考へると同然である。より激しい興味が起されるので

なければ、或る興味が弱らされ得るものではない。もし吾々がサルーン、賭博室、舞踏場、魔窟、低級劇場等に於ける興味を失はすためには、より暖かな、より持續的な興味を惹起す所の或るものによつて、それを相殺せねばならぬ。この相殺をなし得るものは、ポリテクニク、手工學校、講義室、教室、コレヂ、畫廊、高級劇場及び音樂堂である。吾々が民衆に高尚なる事物を提供しない以上は、彼等が低級なる事物に心を引かれることを免や角いふ權利はないのである。

けれども高等教育を授けてやらねばならぬのは、ひとり低級なるものに心を引かるるこれ等労働者に對してのみではない。労働と貧困とつまらぬ世界とに戰つて、力めて正直に知る限りの最善を果し、清らかな生活をなし、さうして惡徳に附纏はれるのを避けんとしてゐる極めて多數の人々がある。これ等の人々はその有てるものよりもより高く富める世界を望んでゐる。さうして彼等にそれに對する材料を供給するのが國家の義務である。この點に於て既に若干の努力のなされ

つゝあるのを見るのは頼もしい。少数の大都市はバブリック・スクールの校舎に於て夜學講義の課程をととのへ、さうしてその努力がまた個人的寛大によつて助長された。凡てこの種のことは進めば進むほど立派なことであるけれども、併し十分に進まないものである。その講義は往々淺薄で、連絡なく、順序なく、組織的教授よりも寧ろ一時的娛樂を供するものである。それ等の多くは新聞雜誌に於て十分絮説される題目を取扱つてゐて、別に知識的努力を要しない。そのみならず、聽衆をして効果に對して責任を感じしむる方法なく——口頭試験も筆記試験もなく、如何なる種類の作業も聽衆には要求されない。さて今日のあらゆる教育家の知つてをり、若くは知らねばならぬことは、凡て最上の教育は自己の努力に歸するといふこと、さうして講義はこのことを喚起せしむる限りに於てのみ價值があるといふことである。この理由により、學級の教授は講義よりも常にいい。教師はその生徒を個人的に知つて、各自の要求するものを與ふるやうに努力すべき

である。労働者を取扱ふ場合、凡ての遠慮を止めて、個人的同情を以てするほど有益なる作用はない。『予は君の一部分である』といふことは、凡ての關門に對する「通券」(Open sesame)である。

ほんたうは、あらゆる都市の區とあらゆる田舎の村に、三部よりなる民衆大學がなければならぬ。即ち(一)手工學校とポリテクニクとで、ここでは諸技術の教授が與へらるべきである。(二)コレヂ、これは權威と宗派心と、さうして今日の大抵のコレヂが固執してゐる所の凡ての中世紀的ぼろ衣裳と象徴とを避けて、首尾一貫した科學的教化を授け、社會の歴史と構成とに關係ある諸科學に特に力を入れるであらう。(註十)(三)浴場、休養室及び衛生上その他類似の題目に關する講義室を具へた體育場である。公衆の講義と演劇とに對しては、十分設備された劇場がなければならぬ。

凡てこれ等のことは或處では既に實現されてをるので、要は全人民の要求に應

ずるためにそれが一般的にならねばならぬといふことである、一例をとれば、三十五年前、若きスコットランド人で、イートンを卒業したてのケンティン・ホッグは、子供のために夜間「貧民学校」といふ卑下した形式で、「工藝教育新會館」の事業に着手した。最近二十年間に亘つてそれはロンドンの中心地たるリゼント街に於ける「ポリテクニク」の堂々たる建物に占據した。次の引用文は、一八九二年の報告書に記されたタイムス紙の論文からとつたものである。「ポリテクニクが他の會館から異なる點は、その生徒に開放されたる工藝教授の細密なる組織である。これ等の生徒は毎學期三志の金を出して入學を許されるので、それによつて彼等は圖書館、社交室、體育場等の使用が出来、凡ての娛樂に浴し得るのであるが、工藝修得に對してはほんの名ばかりの料金を支拂へばす。」

『學級は科學と美術との二種から成り、それ等はサウス・ケンシントン支部と聯絡を保ちながら維持されてゐる。さうして工業學級は獨立してゐるけれども、形

式上多少「ロンドン市及び組合設立工藝教育會館」(The City and Guilds of London Institute of Technical Instruction) と「ロンドン職業會議所」(The London Trades' Council) とに關係してゐる。工業學級はまた機械學の學級と徒弟並に若年労働者のための「實際的職業學級」とに區別され、さうしてこの工業學級はポリテクニクの特徴となつてゐる。その中には種々の機械工學の部門があり、梯子や手摺を製造するが如き附屬的部門の外に、指物業及び大工業のための部門がある。木工、石工、裁縫、看板書き、懷中時計柱時計製造、車類製造、印刷、土地測量と地ならし、鉛管器具類製造、及びその他の職業を教ふる學級がある。凡てこれ等の場合に於て、例へば徒弟の如きものになつて、既に何等かの職業に従事してゐない所のは入學を許されない條件である。何となればこの會館の監理者は、未熟な素人臭い労働者を市場に送り出して、ロンドン職人組織と競争させて徒にその敵意を招いてはならぬ、招かないやうにするのが如何に重要であるかを知るか

らである。

『驚くことは、終日雇はれて従事したる同じ仕事を晩になつてまたなすことを欲する青年を見出し得ることである。ところが確かにその通りであつて、教室は機械を製造し、木を彫り、煉瓦を造り、或は衣服の最もいい裁ち方を學んでゐる若者で以てかなり一ぱいになつてゐる。彼等は一部分真正の學習慾により、一部分は自己をよりよくなさんとする願望によつて導かれてゐる。』へばまだその職業の初歩しか知らない年若き左官が、模型造りや蛇腹造りを習ふために來り學び、これを學習して了へば、彼は多分アメリカへ出掛けて行つて、ロンドンにて單なる左官として儲けてゐた賃銀の四倍位を儲け得るのである。中央の瓦斯機關によつて動かされる幾つかの機械のある機械工學教室に於ては、螺旋を造つたり或はざつと鑄造して置いたボールトを一定の用途に適應させたりすることに心から興味を感じてゐる多くの青年が見られる。部屋は鐵の旋盤やその他の機械で一ぱ

いで、それ等の機械の細部はみな彼等によつて造られてきまつた場所に備へ付けられたのである。

『學級の種別は實に大である。その効果は、もし吾々がポリテクニクの生徒がさまざまな技術上の試験に成功し、常に上席に位することから判斷し得れば、頗る満足すべきものである。』(二二—二四頁)。

『美術のポリテクニクは別の建物にある。講義要目は、自由畫と臨畫、實用的幾何學、それから鑄型の裝飾物や形狀から、また木葉、花、その他の自然物から、白墨で描き取る遠近畫。立體の裝飾物や形狀からの單色畫。模寫や衣裳や自然物からの油畫と水彩畫等を含んでゐる。人體の各部分の模型と鑄造、工藝品に應用されるやうな模型、鏡板、壁柱、大斗の使用法には特別に注意される。圖案及び寫生俱樂部も學校と關係して設けられ、學生の手に成る圖案、彫型、繪畫等の製作品展覽會は毎月催される。』(四四頁)

『ポリテクニク休暇旅行』は、ノルウェー、マデイラ、スキス、アルデンヌ、モロッコ、それからアメリカへすら企てられる。船賃は出来る限り安くする。ノルウェー巡遊の旅費は、一切の費用を含めて八磅五志である。』『殆ど六百人旅行を企てた。』この記述は労働者のための休暇設備の如くにはどうしても受取れない。併し事實は小説よりも奇である。(七七頁以下)

更に報告書の語る所によれば、『現在(一八九二年)名簿には約三千五百人の名が含まれ、その上學級に出席したり、或は學校と或る關係を有する約一萬四千人のものがある。館員年齢の制限は十六歳より二十五歳までであるが、二十五歳以上のものは倍額の授業料を納めれば、名譽館員として入學を許される。單に學級だけに入學するものには年齢の制限がない。上述の年齢(一六—二五歳)に相當する青年の納附金は、毎學期三志、若くは年十志六片である。……』

『前年の會計年度に於ける支出額は三萬四千磅を超過してゐるが、その中二萬四千磅は館員と學生との授業料の上りである。缺損は多年(一八八九年まで)ホッグが個人的に補うて來たが、その後彼は負擔の一部を人から助けられ、學校は一層永久的な基礎の上に置かれた。』

『こんな風にして進んで行つた。然るに一八五三年議會はイギリス全土に於ける慈善上及び教育上の寄附金の行政を司る一省を設け、一八八三年更に新法案が通過して、それによつて從來のロンドン慈善團體が合併され、上述の慈善委員の管理下に置かれた。かくして年十萬磅以上の大収入——その多くは昔の寄附金(その目的は既に経過して了つた)から次第に貯蓄されたものが、新法令の中に述べられた新目的のために役立つことになつた。年約六萬磅は工藝教育及び社會教育の發達のために割當てられた。』

『この凡てが如何に果を結ぶか、また如何にしてリゼント街のポリテクニクが、今や首府の到る處に發生しつつある殆ど十三の同様施設に對する手本として承認

されるやうになるかは、多分別の記者によつて一層適當に叙せられるであらう。  
 ……彼曰く、事實、非常に周到な研究が、中流階級よりも下層階級を利用する  
 工藝教育を發達させる最良の方法を發見する目的を以て、文部省によつてなされ  
 た。内外の教育施設が研究された。その結果、イギリスに於ては富裕階級と中流  
 階級とは晝間の工藝學校に通ひ、夜學校は徒弟や勞働階級の青年のために支持さ  
 るべきである、と委員は決定した。……彼等は、首府の青年勞働者のために、  
 體育場、水泳浴場、競技及び注意深き肉體の訓練が供給せらるべきであると信じ  
 た。……かくして彼等は、ホッグのポリテクニクをロンドンの貧民階級に對す  
 る最も完全にして望まじき形式であることを推定するに至つた。彼等はホッグの學  
 校を模範により、幾つもの同様な會館を首府の到る處に設立しようと決心した。  
 『この規定に従つて、慈善委員はポリテクニクのために毎年三千五百磅の寄附  
 金を保證した。この寄附金はホッグからの年一千磅と他の出所からの一千磅とに

よつて増加され、年々の不足額の殆ど半分を償ふのである。併し年四千磅は、ロ  
 ンドン州會が、工藝教育の目的のために議會、よつて彼等に下附さるる十六萬三千  
 磅中の若干高を、同教育に對して専ら用ゆるやうなときが来るまでは、依然調達  
 されねばならぬ。(註十一)ホッグはまた、慈善委員、ロンドンの學校局、及び彼自身  
 と彼れの共同保管人によつて指名されたる管理團體に、その建物、設備等の一切  
 を譲り渡した。(五三頁以下)。

報告書は次の如き語を以て終つてゐる。

『要するに以上がポリテクニクの物語である。三十二人の先達の會合以來、それ  
 は多數の人々に増加して行つた。假令明日でもその場所が閉鎖されねばならぬに  
 しても、それは眞に國民的、否國際的事業をなしたことになる。何となればリゼ  
 ント街のポリテクニクの勇まじき發達は、イギリス全土のみならず、またアメリ  
 カ及び極東を包含せる世界各地に、大きな樫の木如くその枝を擴げてゐるから

である。

『かかる會館はあらゆる種類の不節制と悪弊とに對する、ありとあらゆる中の最も偉效ある解毒劑である。それは閑暇の時間に健全な肉體上の休養と娛樂とを得させる。それは青年をしてよりよき市民たらしめ、人生の戦ひに於てより有能な労働者たらしむるに足る。就中それは、他人を利用することによつて有益となる人生を飽くまで追ひ求める便宜と奨励とを與へ、且つ多くの若き心に永久的の幸福に至るの道を開いてやるのである。』(註十二)

この長い引用をなしたことに對して辯明する必要はない。これは一方に於て、一人の熱心なる人によつて如何に多くのことがなされ得るかといふこと、他方に於て、大國民がかかる人の事業より如何に學び得るかといふことを示してゐる。イギリスの既になしたこと、またなしつつあることを、アメリカは確かになすことを得、更に一層自由な程度に於てなすことを得る。イギリスのポリテクニク

が民衆大學に於て見出さるべき三部門の中の二部門——工藝學校と體育場とを包含せることは注意すべきである。第三部門は恐らく最も必要のものであらう。

もし紙面が許すならば、イギリスに於ける他の夜間大學、及びハックスレイ教授が最もよき講義をなしてゐるロンドン労働者コレヂ、パリの各區及びフランスの他の多くの都市に發生しつつある通俗大學 (Universités Populaires) に就て説明を與へたい。併し以上は、労働者の工藝教育及び高等教育は單に實行し難き空想ではなく、少數の熱心なる人々の努力によつて容易に成功し得るといふことを十分に示したであらう。フランスの通俗大學に關して、特に注意すべき一事がある。即ちその通俗大學は普通の公立大學や學校に於ける教授と教師とによつて、始められ經營されてゐるといふ點である。(註十三) 然るに國家は今やそれに注意を拂ひつつあつて、いつか必ずそれを國家的教育組織の一部となすであらう。このことは吾々をして教師問題につれ來らしむる。

(六)教師。最近五十年、殊に二十年間に於てアメリカの教師が如何なる進歩をなし來つたかを考察するとき、何等かの批評をしたり、或は何等かの一層の改革を暗示したりすることを人は不愉快に感ずる。而もなほかゝる改革が必要であるといはねばならぬ。吾々の教師はなほ二つのことを要する。即ち(一)彼等が現在有するよりもより以上完全な教育、(二)彼等の多くが現在有するよりもより以上深く、より以上私心なき仕事の興味である。もし吾々が國民の要求する教師を有することありとせば、教授は、法律と醫學とに並んで、自由職業とならねばならぬ。それを求めんと欲するものは、教育學の學校に入學する以前、十分なるコレヂ(教化)教育を受けなければならぬ。さうしてかかる學校には何人も入學して必ず卒業しなければならぬ。(註十四)師範學校は以前には必要なものであつて、多くのいいことをした。けれどもそれは現時の要求を充たさない。師範學校の興ふる教育はやまりに狹隘で、淺薄で、あまりにヒドク専門的であるために、教師が何

物にもまして必要とする眞の教化を保證すること、若くはそれを可能ならしむることすら出来ない。専門的に訓練されたる教師は教化の背景を有しないから、單なる物知りであつて、生徒の魂に研究に對する愛を傳へることも、最高の興味を喚起させることも出来ない。けれども教師は教化を有することだけでは十分でない。彼等は誰よりも先きに傳道的精神を賦與されねばならぬ。自分自身重大な人間的使命を有する使徒たることを感ぜず、教職を單に生活の手段と看做す教師は、他の或る職業を求むる方がいいので、同様のことは凡ての自由職業に従事せる人々に就てもいはれ得る。單に富むために勞働して、健康と正義とを普ねからしむるために働かざる醫師と法律家とは、それ等の職に地位を要求する權利はない。もし自己の勢力と價值とに就て正しき觀念を有する教師が、物質的報酬に對する希望も欲求もなしに、フランスの教師がなしてゐる如く、自ら勞働者の高等教育のための協會を作り、各自一週間に二晩づつ仕事に當るならば、彼等は忽ち



のうちに全人民の教化を向上せしめて、社會を脅威する最悪の危険を除却するであらう。貧困と悪徳と墮落とは夥しく消滅して、安寧と徳と高潔とがそれ等に代るであらう。實にこれ以上の愛國的事業はない。何となれば、最も高貴なる市民的榮冠の得らるるものは、人がその同胞を殺す所の戦場の轟きのうちにはあらず、これに反して男女の獻身的愛國者が、不幸と卑賤と腐敗とを殺すために合同する所の静かなる教室のうちにあるからである。吾々の教師は何日これに對して用意するであらうか。

(註一) 他の數ヶ國、ドイツ、オランダ、スコットランド等に於てもさうであるが、吾々はアメリカにこれを限らねばならぬ。イギリスは不思議にも教育問題に關しては不幸なほど遅れてゐる。イギリスのパブリック・スクール組織は一八七〇年から始まつた。それは依然宗派心と争つてゐる。

(註二) 「無教育者が天國を擔ふ」——アウガスチン。

(註三) 「吾々はたゞ憶測して意見を立て得るのみ」——シルレル。

(註四) 教養ある人々の間で、靈魂不滅の信仰が棄てられたとき、生命が如何になつて了ふかといふ

ことを知りたいならば、今日無考へな人々によつて非常に感嘆されてゐるオマーカイヤムの "Rubaiyat" を讀めばいい。

(註五) 人に動機を提供する世界は、その人が自己の精神内に作つた世界であることはいふまでもない。もしそれが卑しいか、汚れたるか、断片的であるか、若くは曲つてゐるかするならば、彼れの生命もさうであらう。ハムレットの世界(第二劇第一幕)とファウストの世界(第二部第一劇の巻頭)とを比較し、それぞれの結果を見よ。

(註六) このことは大學に就て殊に眞實で、大學の多くは宗派心すら脱してゐない。

(註七) 緊急の必要は、幼稚園の詩歌の蒐集といふことである。"The Mountain and the Squirrel," "Cases in the Air," "Wee Willie Winkie"等の如きは眞の詩歌であつて、"Mutter-und Kose-Lieder"の大部分の如きは狂詩の蒐集に過ぎない。他の必要なることは、アンデルセンの得意のときの最上作 "How to make Soup of a Causagepin" の如き童話の蒐集といふことである。併し現在の児童雑誌や幼稚園文學に於て大部分代表されてゐるやうなものでは困る。

(註八) ロシントンは大規模の國民大學といふ夢想のために遺産まで遺したが、それが一世紀経つた後實現されさうに見えることは、いい徴候である。この施設が勢ひを得て、國民のあらゆる學習機關に統一を與ふるやうになることは望まじきことである。

(註九) 物の解る労働者の階級が悦んで教授の舊地位に歸るやう教へた人は一人もゐない。もし凡ての

コレヂの學生が人生の實際的義務に服するに至らば、いいことである。

(註十) 進化論、文化史、科學概論、社會學、經濟學、比較言語學、美術、宗教、政治學、哲學、心理學等の學級があらねばならぬ。それと共に種々の科學、文學、言語等に亘つて一層特殊な學級があつていい。

(註十一) これはその後實行された。

(註十二) 譯者著「黎明期の教育と文化」中の「ロンドンのポリテクニク」参照。

(註十三) 彼等は多く「ドレーフユス事件」から國民に對して生じたる汚名によつて、このことに覺醒された。

(註十四) 最近までスコットランドの教師は、凡てコレヂ卒業生(M・A・)でなければならなかつた。従つてその地方の普通教育の地位は高く、人民は實際的能力を備へてゐた。イギリスの全官吏の十分の六はスコットランド人であるといはれる。田舎の教師が子供をしてコレヂ入學の準備をなさしめ得るといふことは、スコットランドにとつて偉大なことである。

一、労働者教育の一経験

國民の多數を占める労働者を何時までも無智無能無修養の儘に放任するの不可なることは、既に論議の餘地を存しないまでに明白になつてゐる。労働時間を短縮するのは、労働者の餘暇を多からしめるにあつて、その餘暇を多からしめるのは、彼等をして、その休養と修養とをより以上になし得易からしめんがためである。普通教育を延長して八年としたり、イギリスの如く十八歳までの少年労働者に補習教育を強制したりするのは、矢張り労働者に修養上の恩恵を多く與へようとするものである。我國が六個年の義務教育のみで満足し敢て之を延長しようとはせず、更に補習教育乃至社會教育を等閑に附するが如きことあらば、國民の多數を占める労働者のために時勢に伴へる教育を施すものといふことは出来ない。

かくては普通選挙法がよし実施される暁となつても政治上の改善がよく行はれる筈はない。またかくては國民文化の潮流を促進せしめる所以ともならない。されば爲政者は深くこの點に着眼することが肝要である、世間特志家の力によつて労働者の補習教育なり社會教育なりを擴張し徹底することもまた頗る望ましい事柄である。自分がこゝに紹介する労働者教育の一經驗なるものは豫てから自分の敬愛し來つた教育思想家トオマス・デギッドソンのそれであるが、以上の點を考察するに就て他山の石となすに足るものがあると思ふ。

二

遺憾ながら、デギッドソンの經歷はあまり我國に知られてゐないから、自分は先づその事から述べて行かねばならぬ。彼れの著書には次の如きものがある。

1. The Philosophical System of Antonio Rosmini Serbati.
2. The Parthenon Erietze and Other Essays.

3. Scartazzini's Handbook to Dante.
4. Prolegomena to Tennyson's 'In Memoriam.'
5. Aristotle and Ancient Educational Ideals.
6. The Education of the Greek People, and its Influence on Civilization.
7. Rousseau and Education according to Nature.
8. A History of Education.

右のうち(5)(6)(7)(8)はかなりよく知られてゐる、殊に(7)の「ルソウと自然に基く教育」は「大教育家叢書」の第一篇として廣く讀まれたものである。今讀んでも大に吾々を啓發する所がある。他の書物もみな讀みごたへがする。(1)のロスキニ・セルバティ(イタリーの哲學者)を英米に紹介した第一人者は彼であつた。(8)の「教育史」は自分の常に愛讀する書物であるだけ、ここに翻譯し得たことをよるこばずにはゐられない。彼はまた英米に於ける第一流の哲學心理學教育學等の諸

雑誌に有益なる論文を度々寄稿したことがある。

或る外科手術を受けた結果が思はしくなく、千九百年の九月十四日にアメリカ、モントリオールの某病院で彼は惜くも死んで了つた。彼は實に世の評判以上に豪かつた人のやうである。自分が嘗て外遊の際、ペンシルヴェニア大學の教育史教授グレエヴス氏を訪ぬて、談偶々デギッドソンの事に及ぶと、教授は回想の瞳を動かして、『然り彼は實に痛快な人であつた。』と自分に答へたのであつた。『ロンドン・スペクテーター』誌は彼れの死を悼んで、『吾々は目下の世界に於ける十二賢人の一人を失つて了つた。』と述べた。この評の當つてゐるや否やは自分の知る所でないが、兎も角も吾々は彼に多大の敬意を拂ふべき義務を有することは疑ひない。

彼は千八百四十年十月二十五日にスコットランドに生れ、アバディーン大學で教育を受け、やがてボストンを経てセルト・ルイスに身を落付けたが、その哲

學研究者の仲間認められ、主として哲學上の問題に就て屢々講演したり雑誌に筆を執つたりした。幾度も大學教授に推薦されたことがあるが、大學の如き施設は自由の研究と發表とを拘束するものに外ならずとの見地から、どうしても承認しなかつた。驚歎すべき學識を有し、意志の頗る堅固だつた彼は、暇ある毎にヨロツバその他の地方へ旅行して研究を重ねることを樂みにしてゐた。死ぬ少し前の五十四歳のとき彼がイヂプトへ赴いた目的は、スコラ哲學の研究を完成しようとして、親しくアラビア人と共に暮して見たかつたからだといはれる。スコラ哲學に關する論文の未定稿は、痼疾がいよいよ重くなつて三時間の安眠すらも覺束なかつた頃の執筆にかゝるといふ。

三

彼は光のみならず熱をも有する學究であつた。さうして曲つた事は飽くまで嫌ひな、極めて友情の厚い人であつた。併し彼は結局、何時も淋しい哲學者であつ

た。もし彼に一生の花ともいふべき一経験を求めたならば、そは彼が偶然にも労働者の教育に従事することが出来て、労働者の親友となり得た晩年の一事蹟のみであらう。彼れの人生觀の如何なるものであつたか、彼れの教育思想乃至理想の特色はどこにあつたか等の事に就て詳かに語るべき時機を見出したく思ふが、さうしてこの事に就て語らなければ、彼れの労働者教育の趣意もはつきりして來ないと思ふが、今は時間と紙面の餘裕とに乏しいから、――

『(一)この世を更によきものとなすために眞に熱心にこの世を理解せんことを希ひ、且つ何等の偏見なく何等の通俗的、常套的意見や權威に左右さるゝことなくして、あらゆる疑問を考究せんとするために。(二)教授、講演、著作、實行等のあらゆる方法によつて、知識的、道德的眞理を宣傳し、單なる慣例や無理解なる獨斷に基く生活を打切らしむるために……』

といふ彼れの詞を、彼れの教育理想の一片を示すものとして採録するに止めて、

ちに彼れの一経験なるものを叙述することにする。

四

千八百九十八年の冬、彼はニューヨーク、イースト・サイドの「庶民會館」主事の依頼によつて、「教育同盟」の講堂で、主として諸外國から移住し來つた多數の労働者のために、四回に亘れる連續講演を試みた。聴衆の中には、社會主義者マルクス派の人々や無政府主義者などが大分交つてゐたが、「庶民會館」主事がデギッドソンを紹介して、講演者は「フェビアン協會」の創設者であつて、豫てから労働者の大なる味方である旨を述べたので、聴衆は非常なる興味を以て講演者の一語一語を聞き漏さじと努めた。講演者たるデギッドソン自身は如何にも「フェビアン協會」の創設に與つたことはあるが、この有名なる協會の社會主義を一々信奉するものではなかつた。然るに聴衆は遂に彼を初めから社會主義者とはかり思ひ込んで了つて、社會主義に關する講演を期待したにも拘らず、彼は社會主義者

たるにはあまりに無政府主義者であり、無政府主義者たるにはあまりに社會主義者であるといふやうな辯解をなした上、「二十世紀が十九世紀より繼承して解決すべき諸問題」といふ題目の下に、全然聽衆の期待を裏切つて、哲學的、文明史的立場からその問題を取扱つたのであつた。彼れの友人はかくの如き題目にて講演するの無駄にして不利益なことを前以て警告したけれども、彼は深き自信を抱いてこれを試みたのである。所が第二回は第一回よりも聽衆が殖え質問續出の有様であつた、而もその質問は孰れも眞面目なるもののみであつたから、彼は極力自説の闡明に努めた。然るに第三回の講演後、一人の青年が立上つて、辯者が労働者教育の必要を説かれたのは結構であるが、併し毎日九時間も十時間も働いて疲れ切つた體を我が宿へ運び、そこには讀書の便宜もなく教師として適當なる人の一人もなきことを發見する我々労働者が、抑も如何にして辯者のいふが如き事を果すことが出來ようと述べた。デギッドソンはこれに答へて、それが即ち二十世紀

の解決すべき諸問題の一つである。自分は單獨の力を以て諸君の労働時間を短縮することや讀書の便宜などを計ることは出來ないけれども、もし諸君にして希望するならば、或る倶樂部の如きものを設けられよ、それに自分は毎週一回づつ必ず出席して及ぶだけの力を竭さうといつた。すると或る一人が、そんな事はほんの冗談でせうといひ放つて、一齊に滿堂の拍手を浴びた。併しながら散會後講堂に居残つた一團の青年は、デギッドソンに眞意を問ねた揚句、遂に決心して或る研究倶樂部を設けることを立所に申合せ、「教育同盟」の監理者もその目的のために講堂を貸すべしとの約束をしたので、いよいよ翌年即ち千八百九十九年の春からこれを實行することに取極めたのであつた。第四回の講演には聽衆は更に殖えて六百餘名に上り、非常なる成功であつた。

五

デギッドソンの労働者教育はかくして實行さるゝ運びになつた。然るに第一の

困難は、同じ労働者といふ中にも、種類がさまざまであつて従つてその要求も一様でないといふ點であつた。併しまたよく考へて見れば、彼等の何人といへども、多少は歴史及び社會的事項に興味を有するのであるから、こゝから出發して行けばよいのであつた。それゆゑデギッドソンの最初の目的は、歴史及び社會學上の大問題に就て篤と彼等の注意を促がし、それに就て細心なる研究をなさしめ、社會に對する奉仕の精神と個人的努力の貴重なることゝを會得せしめ、結局は理想的生活を送らしめるにあつた。それから正確なる英語を學ばしめるといふことも附隨せる目的であつた。蓋し純粹アメリカ人としての労働者が既に正確なる英語に通じないのみならず、彼等の中にはユダヤ人始めさまざまな外人が交つてゐたからである。

デギッドソンはたゞ研究上の刺戟を彼等に與へるに止めて、仕事は彼等自身に多くやらせるといふ方針の下に、次の如き計畫を立てた。

(一)傳記 (イ)アリストテレス、(ロ)ベエコン、(ハ)カント、(ニ)ヘルダ

ア、(ホ)ギョエテ等

(二)定義 (イ)社會、國民、國家、(ロ)社會學、(ハ)社會主義、(ニ)制度、

(ホ)人と個人等

(三)地圖 (イ)イヂプト、(ロ)バビロニア、(ハ)アッシリア、(ニ)ペルシャ、

(ホ)パレスタイン等

(四)人種 時代、宗教、(イ)チュレニアン、(ロ)セミティック、(ハ)アリアン、

(ニ)野蠻、(ホ)未開、(ヘ)市民主義、(ト)人道主義、(チ)佛教、キリスト教、(リ)回教等

(五)講讀 (イ)ヴェニス商人(一節)、(ロ)テニソンの詩、(ホ)フランシス・ブ

タウンの詩、(ヘ)讚美歌、(ト)ロオウエルの詩等

以上の研究を第一班とし、第二班はヘンダアソンの「社會的要素」を臺本とし



て幾多の社會問題を討議する所のものであつた。これ等の二班を合せて「歴史及び社會學の學級」と名づけた。千八百九十九年一月七日の始業日には五十六名の労働者が出席したが、後になつて調べて見ると、年齢は十六歳から五十八歳まで區々まち／＼であつた。併し婦人は極めて少數であつた。デギッドソンは先づ出席者の氏名、宿所、職業等を紙片に記入させた後、兩班の仕事に就てその研究方法を説明し、次でもしこれ等を諸君が研究する、ならば、社會主義とは何か、無政府主義とは何か等の問題を始めて明白に理解する、であらうと述べた。彼は更に言葉を續けて、吾々はよく問題の眞義を理解せずして主義を立てるの弊を有つてゐる。吾々の懂がれるユートピアなるものは孰れもその類に屬するが故に、如何なる主義を立てるにも、吾々は先づ歴史上の事實を考察し人間の心理を洞察してからでなければならぬ。而も斷つて置くが、これから吾々はありのままの事實を——社會學及び歴史上の事實のみを考究するに止めて敢て何等の主義をも宣傳

しようとはせぬものである、云々と述べた。

始業日はかくの如くして済んだ。さて次の土曜日には、前回よりも多くなつた出席者の中に婦人の顔も大分見えた。先づ二三の講讀を済して討議を換はした後、憐みと正義との關係に就て研究を進めた所、出席者は勝手な意見を出して論じ合つたが、遂に纏り兼ねたので、デギッドソン自身がこの問題の解決を試み、序でに、諸君が今「予はかく信ず」といふ語を頻りに用ゐられたのは、諸君が既に始めから獨斷論に陥つてゐたことを示すものであると指摘して、出席者を成程と領かせた。第二時間目には、ヘンダアソンの「社會的要素」中の「自然に於ける社會の基礎」と題する章を取扱つた後、歴史に關する問題の研究に移つた。かくして第三、第四、第五の土曜日へと回を重ねて行つたが、回を重ねる毎に出席者は殖えて行つて一室には最早收容しきれず、三室を用ゐることになり、デギッドソンの友人や學生中の優等者が矢張りクラスを受持たねばならなくなつた。

或る時のこと、若い學生の一人がデギッドソンに向つて、自分は物質主義者であると聲高らかに述べ立て、クラスの喝采を買つた。すると彼は、物質といひ物質主義といはるゝは一體何の事を意味するかと問ねて見た。學生の凡ては一言もこれに答へることは出来なかつた。よろしい、諸君は物質に就て如何なる事を知れるや、ここに物質あらばこれを知る所の諸君なかるべからず、と彼がいつたとき、然りそは堅きものなりとの答が聞えた。その通り、物質は堅いものには違ひないが、併し諸君はこれに手を觸れずして堅いものだといふことが解るや否や。一同は始めてその然らざることを知つたらしかつたので、デギッドソンはこのときすかさず、物質なるものに手を觸れずして物質なるものを知ることが出来ない、而もなほ諸君は物質主義者を以て甘んずるかと思ひかけて行つた。即ちかくして一夜のうちに、出席者の腦裡に理想主義的見方を植付けることが出来たのであつた。

六

かくの如き勞働者教育は遂に四ヶ月も續いた。デギッドソンが故あつて田舎に引込まなければならなかつたとき、彼と學生との間にはいひ難き別離の情の湧かざるを得なかつた。彼を失つてからも、毎土曜日夜のクラスは斷絶しなかつた。その夏も、その秋も、決して斷絶しなかつた。マアティノオの「諸種の倫理學說」、フリーマンの「比較政治學」などもデギッドソンの勸告によつて講讀せられた。學生の手に成つた有益なる論文は田舎なる彼れの許に托送せられた。彼と學生との間には毎週のやうに心を籠めた文通が行はれたのであるが、當時の彼れの書信は人を動かす誠實と熱情と聰明なる訓戒とに充ちたものであるから、自分は機會あらばこれを翻譯して見たいと思つてゐる。

同年九月に入つて、デギッドソンはニューヨークに歸つたが、十月まで某病院に日を送らねばならなかつた。十一月になつて、彼はまた他の友人と共に教鞭を

執ることとなつて、ギョエテの「フッウスト」を研究の主題とした。「フッウスト」を講義するに當つて彼は五つの目的を以てした。

(一) クラスのものに眞の詩に對する趣味を養はしめんがため。

(二) 文學上の大作はその微細の點に至るまで研究すべき必要あることを知らしめるため。

(三) 人の精神は、超自然主義、信仰、教權等から自然主義、科學、自由等の方向に移り行くといふ「フッウスト」の中心觀念を明示するため。

(四) 教權の倫理學と自由の倫理學とを峻別して中世紀的生活から脱退すべきことを教ふるため。

(五) 束縛の生活から自由の生活へ遁れ出で、更にますます價值ある生活に進み入ることの必要を知らしめるため。

デギッドソンはまた哲學史の講義をも受持つた。それにはシェウエグラの著

書を用ひ、ヘーゲル、ツエラー、バイク、フェアバンク、イッバアウエグハインツエ、エルドマン、ウキンデルバンド等の著書をも参考せしめた。

七

さてかくの如きクラスの繼續によつて、労働者としての彼等を裨益した所は抑も幾何であつたかといふに、デギッドソン自身の觀察によれば、彼等は疑ひもなく知識的、道徳的の識見を多少なり深めたことは事實であつたが、その外に、彼等を説いて實際の博愛事業にたづさはらしめること、一切の階級的觀念や非社會的思想を放擲せしめることに、少からず成功したのであつた。

デギッドソン自身は永い間の痼疾のためにそのクラスを受持つことは途切れ々々になつて行つたが、彼れの友人と門弟とは、本來の事業たる「歴史及び社會學上の研究」を繼續すると共に、ニューヨーク、イースト・サイドの貧民の子等を集めて、幼稚園を起すとか、小學教育を施すとか、その土地の名士富豪と意思の疏

通を計るとかして、よし規模は小なりといへども、熱心は不斷に變ることなく、デギッドソン死後の今日に於ても、この偉大なる指導者の遺志は忠實に受繼がれてゐるのである。それから特に附記すべきは、「教育同盟」が常にこの運動に厚意を表し來つたことで、千九百年の春には、この運動を輔佐するの意味を以て、「教育同盟」の名によつて寄附金を申込みし、その後とても常に幾多の便宜を與へて來たのであつた。

八

ニューヨークからモントリールへ、モントリールからニューヨークへ、彼はその病軀を幾度か移動させながら、クラスの幸先きよきを唯一の樂みとしつゝ、日を送つた。友人や門弟は機會ある毎に彼を訪問したり文通したりした。彼がまだ元氣の衰へなかつた頃、ニューヨークからあまり遠くないグレンモーアの山地に家を持つてゐたことがあるが、そこにも彼れの講義室が設けられてあつて、夏の日な

ど、よく彼を訪問した友人達は、その講義室の側に吊してあつた鐘を打鳴らして到着の合圖をすると、二百呎も高い丘の樺の林の中に専念に仕事してゐる彼れの耳にそれが響くので、彼は直ちに書物を伏せて、急いで丘を下りて來たものであつた。而もシャモンタンターと稱する大きな黒頭巾を左手で高く打振り々々、右手は握手を促がすかのやうに差伸ばしながら、彼は真心の籠つた、輝かしい、聰明な顔の持主であつた。然るに腫物は彼に取つて致命的のものであつた。これがために彼れの元氣も次第に衰へて、動作も不自由になり、思ひ切つて試みた手術の結果は千九百年の秋、モントリールの某病院で終に彼れの命を奪ひ取つて了つたのである。友人並に門弟は九月十四日の臨終の日を、恰も彼等の父を失へる日の如くに驚き且つ惜んだものである。今日に於ても毎年十月には有志の追悼會が開かれ、一月にはクラスの記念會が催される。(大正九年四月——「教育論叢」に掲載)

一、ピエール・アベラルの一生

ピエール・アベラル *Pierre Abélard* は一〇七九年アヌターニユ、パレエの小貴族の家に生れた。

當時の西ヨーロッパは封建制度の世の中であつた。各地の王侯貴族は権力争奪に餘念なく、人民は豪味、無智、殺伐、残忍の風から脱してゐなかつた。何しろキリスト教の文明が漸く曙光を呈しかけたばかりの時代であつた。

パリはこの時代の一縮圖であつた。城壁によつて圍繞され、陰濕なる小街路が縦横に錯交してゐた。都市とは名ばかりの一大部落に過ぎなかつた。夜になると、野獸が襲來したり、兇漢が出没して亂暴、狼藉を極めたりした。ノートル・ダム寺院は小規模ながら今の場所にあつた。こゝに説教を聴きに來るほどのものは少開化した人達であつたが、この人達の間には、いかにがはしい罪惡を犯すものが夥しかつた。否、僧侶さへ破戒の變行を敢てして平然たるものが尠くなかつた。

ギヨーム・ド・シヤムパツといふ學者は、アベラルの生れぬ先きから、ノートル・ダム寺院の神學校に得意の實在論なるものを鼓吹してゐた。これに對してロセランといふ人は、唯名論なるものを唱道して屢々ギヨームと論戦したが、その揚句教會の忌諱に觸れて、異端者なりとの罪名の下に首斬らるゝに至つたことは、史上に明かである。

アベラルは小貴族の家督として空しく田舎に朽ち果つるのをよるこばなかつた。飄然と故郷を立出て、當時高名なる神學者の門を訪れ歩いて、ひたすら研學に身を献げた。一説には、ロセランの弟子となつたこともあるやうに傳へられるが、これは疑はしい。幾年か漂泊の旅を續けた末、始めてパリに上つて來て、承らく待ち憧がれたギヨームの講義を聴いたのは、彼れの二十歳のときであつた。併したとへ師の講義だとはいへ、不満でならぬ節々があつた。それから二年後、彼は思ひ切つて師に論戦を挑み、一溜りもなく師を説破して語に窮せしめ、多くの弟子達の面前で散々の耻辱を蒙らした。その日から彼は最早たゞの學生ではなかつた。勿々パリを去つてセイヌ上流のメリユンに赴き、後にコルマイユに移つて、獨力で學校を開いたのであつた。一一〇八年彼が二十九歳のときには、彼れの學校はサント・ジエネギヅの丘に移されて、直ぐ眼下のノートル・ダムを威嚇したものである。弟子なる人のこの驚くべき成功に、ギヨームの氣力は日に／＼挫けて行つた。ギヨームは已むなくパリの入口まで退いて、或る組合教會を組織したが、遂にそこにも居堪れず、シヤロン・シュル・マルメの教會監督となつて地方に引込まねばならなかつた。主を失へるノートル・ダムの神學校は一一一三年全くアベラルに開け渡されて、それ以來彼れの名聲はフランスは愚か、ヨーロッパ中に喧傳されたのである。

二

この稿の目的はアベラルの一生の經歷を語らうとするのであつて、彼が哲學史上にいかなる地位を占めてゐるかを究めようとするのではないけれども、順序として一應この第二の點に言及して置かねばならぬ。

ギョームの實在論に従へば、普遍性 (universalia) は實在するもの (crealia) であるが、ロセランの唯名論によれば、實在するものは凡て個々物であつて、普遍性は唯だ個々物の總稱たるところの名目に過ぎないのである。アベラアルより見れば、ロセランの理論は未だ徹底せる思辨を経てゐなかつたし、ギョームの學説はあまりにプラトニ風の抽象的理想論に陥つてゐた。アベラアル以爲らく、普遍性は個々物のうちに存し個々物以外に於ては、それはたゞ概念としてのみ存し得るのであつて、普遍性は現實としての個々物のうちに於ては、本質としてではなくして單なる個々物としてのみ存するのである、と。蓋し實在論が、普遍性は個々物に先ちて在りといひ、唯名論が、普遍性は個々物の後に在りといふに反して、アベラアルの概念論は、普遍性は個々物のうちに在りとなすところの、アリストテレス風の具象的理想論を唱へたのである。

アベラアルには著しき創見と認むべきものはなかつた。彼れの強味は主として神學研究の方法の上にかゝつた。彼は先づ理解してから信じようとした。哲學の門より神學に入らうと試みた。精神の自由を以て傳來の教義を批判しようと企てた。これは實に當時の盲信的風潮に對しては破天荒のことであつて、彼が異端者なりとの譏をば一再ならず蒙り、さうして身の破滅をも招いたのは、理由のないことではない。デカルト思想の先驅者として、學藝復興の暗示者として、近代精神の豫言者として、彼れの知きが夙く既に中世に現れてゐたといふ事實は、思想の源流は溯るに従つていよいよ深きことを想はせる。寺院に附屬せる諸種の神學校がただ、因襲的信條に盲從し來つたその反動として、彼れの創立せるメリユン、コルバイユ、サント・シュエネズエツ、引いてはノートル・ダムノートル・ダムの諸學校は劃然と新しい立場を占めて來たのであつて、彼が眞の意味で

のバリ大學創始者であると認められてゐるのは、決してなほ附會された憶説ではないのである。畢竟彼はこれ等の點に於て著名なる中世の神學者であるが、それと同時に彼はその愛人 エロイズエロイズとの有名なる悲戀の物語を後世に遺してゐるのである。

三

アベラアルの體格は逞しく、容貌は氣高くして且つ凄味を帯びてゐた。彼はまた取別けて美しい聲の所有者であつたらしい。彼れの名と共に永久に記憶せらるべきエロイズが、一一三六年彼に宛てた書簡の中にかう記してある。君は婦人の心情こころを立處に奪ふに足るべき二つのものを慥かに所有し給へり。物言はるゝとき、歌唄はるゝとき、君は實に名狀し難き魅力を以て、いかに君の聲を驅使すべきかを心得らるゝに似たり。と。その博學、その論理、その熱心、その辯力の強さ、その態度の雅致あること等は、洵に喩へやうもなき説教上の美質の全部であつた。彼は自己に確信を置いて容易に人に譲らなかつた。彼は書齋裡の默想家といふよりは力と光榮とを追求する論戰家であつた。或る批評家は、古代ギリシアの哲學者も彼ほどの力強き傳道はなし得なかつたらうと述べてゐる。さればフランスの果のみならずヨオロツバの各所から、その講義を聴くべく參集したものは、一一〇八年以後年々五千以上に達し、界限の宿屋は充ち溢れ、彼等のたて糞たるべき食物にも時々窮したことがあつたといふ。

四

アベラアルが一一一三年ギョームの後を承けてノートル・ダム神學校の説教壇に立つに至つたことは、既

に述べた。一一一三年といへば彼が三十四歳のときである。これが彼れの生涯中での最も光榮ある時期であつた。而も名譽の頂點に達した彼れの心の奥底には、世にいふ「魔がさし」始めた。變化を求むる感情が知らず識らず萌しかつてゐた。併し五年はいつしか無事に過ぎたが、時に幸か不幸か、ノオトル・ダムの境内に住み込みの僧侶フェルベエルは、丁度十八になる一人の姪を世話してゐた。名はエロイズ、フランス史上に名高いモンモランシー家の血統を傳へた貴族の生れである。人並優れて美しい、身の舉動も目立ちて爛雅である。ラティン語の外にギリシア語、ヘブライ語にも通じ、また詩と音楽にも淺からぬ素養を持つ才媛である。いつもいつもアベラアルの講義は缺かさず聴きに來るのであつた。この説教者の胸中には、俄かに愛戀の情熱が燃え盛つて來た。薄暗い説教壇の周圍にも、平常の單調を破る和諧音が鳴り響くやうに感ぜられて來た。彼がこれまで蓋世の誇りとした學問も雄辯も、この情熱に對し、この和諧音は對しては、色香なく、力ないものに思はれて來た。彼は遂にフェルベエルの家に寄寓して、その姪の私教師たることの承諾を得た。一史家のいつてゐるやうに、「彼は今や世界の學者達を驚歎せしめた天才を傾け蓋して、この一少女の無邪氣なる心を捉へようとした」のである。純なるエロイズの心は恍惚として男の要求を容れて了つた。二人は歡樂と幸福との新生に入つて行つた。その結果は忽ち現れて、アベラアルの公務にいろ／＼な支障を生じたのみでなく、彼は大膽にも幾首かの戀愛歌を發表して世人を驚かし、これがまたパリの街頭で口々に愛誦せらるゝといふ騒ぎに、彼等二人を信ずることの厚かつたフェルベエルも今は漸くそれと心付かずにはゐなかつた。彼は憤激して物もいへなかつた。さうして彼等二人の間は無殘々々裂かれた。二人はただ非常なる

危険を冒して密會するの外なかつた。兎角するうちエロイズはとう／＼身重になつて、その愛人と共にアレターニユに逃げ隠れることになつた。エロイズは幾くもなく男の兒を擧げて、その名をアストロラーブと命じた。アストロラーブとは古代の天體觀測儀のことである。神聖なる愛戀の間に生れた兒に尋常陳腐なる名はふさはしくないかと考へたからであつた。アストロラーブは生長後修道院に入つたが、その後半生に就ては杏として傳はらない。さてアベラアルはフェルベエルの怒りを解くために、正式に彼女と結婚し、而も己れの榮達のために、世間へ結婚の事は秘密にして置かうと欲した。併し彼女はアベラアルがこれまで男らしく送つてきた獨立の生活を結婚ゆゑに犠牲にして貰ひたくなかつた。お互はたゞこの儘でありたい、この儘にして苦痛はどこまでも忍んで行きたいと願つた。二人は兎に角再びパリに戻つたが、世間ではさまざまの悪評を彼等に浴せ掛くるのであつた。エロイズは生活のあまりに煩瑣にあまりに果敢なきに堪へ兼ねて、フェルベエルが一切を許さうといふ寛容の心にも逆ひ、齡未だ二十に充たぬ身空をアアツヤンティユの僧庵に尼たるべく決心した。かくしてフェルベエルは又も憤激して、女を勝手に弄んだものはアベラアルである、さうして彼は今エロイズを捨てようしつのであるのだ、と思ひ込んで了つた。或夜ふとアベラアルの居室を襲つて、彼に酷い暴行を加へたものは、フェルベエルとその仲間達であつた。翌朝この變事を聞いた市民の群は我先きに彼れの家に駈付けて、門前忽ち市をなした。併しその時代の殺伐なる氣風は、アベラアルの血管にも通つてゐた。怨み骨髓に徹した彼は、二三人の暴漢を雇ひ入れて、フェルベエルとその仲間達に報復し、教會に訴へてフェルベエルの財産をも沒收せしめた。けれども彼は所詮、これまでの光榮ある大説教者ではなく、最早

四十の坂を踏えようとする、見るも憐れなる一僧侶となつて了つた。

五

サン・ドニの僧院は彼を待つてゐた。彼はそこに我と我が苦悶を葬らうとしたのである。そこは併しあまりにパリに近過ぎて、静寂を欲する彼れの心に適してゐなかつた。それに戀人が世を捨てたアアジャンテイユの僧院は、セエヌを下つて僅か四五哩のところにある。この事實も彼をして徒らに焦燥せしむるのみであつた。加之彼れの性來の研究心と奮闘心とは又々勃然と蘇つて來た。エロイズには永久に尼となつて貰ひ、己れだけは再び出世の門出かどでにつかうと欲した。この欲求は、彼女から見ると、随分冷酷、非人情なる宣告としか思はれなかつた。堪へ難い苦痛、忍び難い屈辱をさへ感ぜずにはなれなかつた。それでも彼女は深く意を決して、神前に誓ひを立て、全くの尼となりきつて了つた。かくしてアペラルは舊門弟よりの懇請を容れて、メエゾンセルの修道院に豫ての如き學校を開いたのであつた。彼れの講義は以前のよりも一層敬虔の念に燃えて、聽衆の数は三千にも達し、感化を及ぼす程度も依然として深かつたけれども、彼に反對するもの、勢力はいつの間にか豫想外に蔓つてゐて、これに抵抗するは流石の彼にも容易なことではなかつた。彼が或時試みたる三位一體に關する講義は、唯理論的立場よりせる異端説と看做すべきものであると非難するものが出来て來て、一一二一年ソアソンに催されたる宗教會議の問題に上り、その結果、彼はサン・メダアルの僧院に幽閉せられ、己れの著作は手づから焼かれはならなかつた。彼れの如き氣象にしてかくの如き處遇を受け、而も訴ふるに道なき今の悲嘆すべき運命に對して、彼は到底忍従し得べくもなかつた。彼は私か

に僧院を遁れ出て、ところどころ流浪し歩いてゐるうちに、偶然にも時の王ルイ・ル・グロワに知られ、その大臣職シユシエル、エスイエヌ・ド・ガアルランド等の保護の下に、隠退の場所を好みに任せて與へらるゝことになつた。十二世紀の王家は、シヤアルマヌ大王の風に倣つて、學者に對する優遇を忘れなかつたのであるが、アペラルも教會よりは上述の如く所罰せられながら、ルイ王家よりはかゝる保護を受けたのである。

彼は、隠退の場所として、セエヌの上流ノジヤン、トロイ間の曠野を選んだ。一人の弟子を伴つて彼は飄然とこゝにやつて來た。切株と蘆葦とで粗末なる小舎は作られた。かくと知つた昔の弟子達ははる／＼この隠棲を慕つて、パリなどから續々集つて來た。曠野の各所には天幕が打張られ、草の上に眠るものさへあつた。教ふるといふことは彼にとつて唯一の楽しみであつた。弟子達が彼れのために建立した禮拜堂はパラクレエと名づけられた、パラクレエとは「慰藉者」といふことを意味するのである。(註、一説には、彼手づからこれを築造したとある。)

六

このパラクレエに於ける成功は一一二六年まで續いた。併し教會はいつまでも彼れの行動を大目には見てゐなかつた。刻々に迫る身邊の危険を避くるために、彼は遙か下プレターニユの海岸へ落ち延びて、サン・ウルダの僧院を預ることにした。轉變なき身の上ながら、自分といふものに對する土地の氣受けはあまりに無慈悲にあまりに無頓着で、四圍の風物はあまりに蕪雜、單調であつた。兎もすれば忘れ勝ちだつたエロ



イズの事どもも、この頃はヒシ／＼と胸に往來した。かのノオトル・ダムの奥まつた彼女の居室の様子さへ、恰も昨日見たものやうに鮮かに眼に浮んで來た。アアジャンテイユの僧庵にエロイズは今、いかなる作が住居をしてゐるか、知りたきはこの一事であつた。ところがふとその僧庵の解散されたことを彼に傳ふるものがあつた。彼はこの知らせに少からず驚き悲しんだけれども、而もこれは却つてよい結果を齎らした。何となれば彼はエロイズをバラクレエの主たらしむることが出來たからである。その後彼は私かにバラクレエを訪づれて、一時彼女の指導者となつたこともあつたといふ。併しそれにしても二人は宗教上の教友として、道を語るより以外に、若かりし當時の情熱は胸深く秘めて置いたに違ひない。少くともアベラアルは彼女にとつて最早あまりに冷めきつてゐた。當てもない再會を期して袂を別つてから、彼女の人情と知識とはますます世間の嘆賞するところとなつて、彼女はこのバラクレエに戀人の跡を偲びながら靜かに老い行く身であつた。一方アベラアルはサン・シルダの僧庵にもとう／＼落付かれず、暫らく近邊の某所に潛伏して機會を待つてゐた。この間に一卷の「數奇傳」はものされたのである。この書は彼が、過ぎ去つた我が身の不幸の變遷を叙し、果てしなく重なり合ふ現在の危険と薄運と堪へ難き倦怠の情とを懇へ記したものである。この書が偶々エロイズの手に入つたときに彼女は胸を壓へて感泣した。思ひ餘つて彼に宛てた手紙の文句は女らしい情緒の限りを傾け盡したものであつた。アベラアルのためには家をも名譽をもその他一切のものも捨て、顧みず、而も二人の結婚によつて男の自由を犠牲にすることを恐れたエロイズは、今となつて見ると、せめて兄妹の契りだけは固く結びたかつた。彼に返す第二、第三の書簡は主としてこの心を籠めたもの

で、シヤトリーブリアンもいへるが如く、「箇中崇高なる靈性の閃きを藏した」ものであつた。或る一節には次のやうな言葉があつた。

「貴下あなたの命令ならば、着てゐる衣服を取替へるは愚かなこと、靈魂たましひとても取替へることを辭さなかつたであらう。それ程までに、妾は身をも心をも貴下あなたに捧げてゐるのである。神も知ろし召す、妾は曾て決して貴下あなたより他の人に心を移した事はない。妾は只貴下あなたのみ求めてゐた。が、それは貴下の學問や才能ではない。そんなものを求めたのではない。只貴下あなた其人を慕つてゐたのである。」（中島孤島氏譯による。）

アベラアルはかやうな羨らしい手紙に對して、いかにも形式的で且つ冷靜なる返書を送るのが常だつたので、彼女は或時はもどかしく感じ、或時は反抗心さへ抱いた。

アベラアルは併し女のこの真心に後引かれながらも、三度バリの説教壇に立たれば氣が濟まなかつた。一三六五年五十七歳の齡を提げて、彼は又もサント・ジエネズエツの丘に現れたのである。イギリスの名僧ジョオン・サリスベリーは當時の聽講者の一人として次のやうな感想を記してゐる。

「バレエ生れの名高き逍遙學者の國を見舞ひぬ。當時彼はサント・ジエネズエツの山上にて、その講壇を主宰しつゝありき。……予は親しく彼に咫尺して辨證術の第一原理なるものを聽けり。予は予の淺き判斷力を頼りに、彼の口より漏るゝあらゆる事柄をば、予の心靈の及ぶ限りの熱心を以て、概括したり。」と。

併しながらこれほどのアベラアルも到底時運に逆行することは出來なかつた。周圍の反對を抑壓するには彼は殆ど全く無力なのであつた。いよ／＼數年のうちに最後のさばきの日は近づきつゝあつたのである。

既に彼がバラクレエにゐた頃から、彼れの論敵たるベルナルド・ド・クレエルグオは教會の大立者となつてゐたので、一四一一年七月サンに開かれたる宗教會議に於て、ベルナルは熱烈なる教會の辯護を試み、アラアルをば紛れもなき異端者であると宣言した。アラアルは喪心して顔色土の如く變じたけれども、なほも立上つて何事か呟いた後、「法王の審判を乞はん。」とのみいつて引退がつた。この場合、彼が果して眞に己れの敗北を承認したかどうかは疑はしいけれども、兎に角宗教會議の決議によつて、その著作は悉く焼かれ言論は封ぜられ、終生禁錮の身となつて了つた。翌年に及び彼はいよいよ自らローマへ出頭すると稱して、途中クリュニーの僧院に差蒐つたとき、俄かに力盡きて昏倒したなりで、病軀は同情者の手によつてサン・マアルセリユスの僧院に移されたが、四月二十一日彼は終に起たずなつて了つた。遺骸は始めその僧院の墓地に埋葬され、間もなくバラクレエへ運ばれて、エロイズの懇るなる管理の下に幾歳月は過ぎた。一六三年五月十七日エロイズも亦彼れの跡を蹤つたのである。二人の骨は幾度となく發掘され、殊にフランス革命等さまざまな變遷を経て來たにも拘らず、不思議にも太だしく毀損されずに、最後にパリ、ムエル・ラシエズの墓地に改葬された。石棺の上に横臥せる二人の像は、一八三六年に死んだアレキサンドル・ルマールの刻んだもので、ゴシック式の天蓋に白日を遮ぎられながら、樹木豊かなる墓地の一隅に、安らかに眠つてゐる。この不幸なる兄妹こひびとのために香華を捧ぐる老若男女は、日々その足跡を絶たない。石棺の側面には念入りの碑銘が讀まれる。(大正七年五月——「三田文學」に掲載)

# 人名索引

(a. b. c 順)

- Abélard アベラアル ..... 236, 242n  
Abraham エブラハム ..... 63n  
Achilles アキレス ..... 128  
Æschylus イスキラス ..... 105n  
Albertus Magnus アルベルツス アグヌス ..... 258  
Alexander the Great アレキサンダー大王 ..... 171  
Alcuin アルクイン ..... 226, 230n  
Al Farabi アル・ファレバイ ..... 196  
Alfred, King アルフレッド王 ..... 248  
Al Ghazzali アル・ガーザリ ..... 217, 219n  
Al Kindi アル・キンディ ..... 196  
Anaxagoras アナクサゴラス ..... 172n  
Andersen アンデルセン ..... 419  
Anselm アンセルム ..... 236  
Apollinaris Sidonius アポリナリス・シドニウス... 190n  
Aquaviva アクアヴヰヴァ ..... 275  
Aristophanes アリストファネス ..... 134, 151n  
Aristoteles アリストテレエス 146, 150n, 152n., 199n.,  
242n, 250, 258, 262, 282,  
308n., 309n., 381n.

Arnold of Brescia	ブレシアのアーノルド	240
Athenagoras	アテナゴラス	174
Augustine	アウガスチン	184, 418n
Avendehut	アヴェンデフト	245
Bacon, Francis	フランシス ベエコン	273, 282, 307n
Bacon, Roger	ロオチャー ベエコン	253, 281
Bede	ビイド	187, 190n
Benedict, St.	セント・ベネディクト	185
Berkeley, Bishop	バークレイ	306
Bernard, St.	サン・ベルナル	236
Bernardino Telesio	ベルナルヂノテレシオ	282
Boëtius	ボエシウス	186, 190n, 249
Bonnet	ボンネ	378n
Bruno, Giordano	チオルダノ ブルウノー	262
Cabanis	カバニス	308n
Calasanzio	カラサンチオ	277
Calvin	カルビン	268
Cambyzes	カンピセス	105n
Carvilius	カアルブリウス	158
Cassidorus	カッシドルス	186
Cato	カトー	163n
Charles the Great	カロル大帝	220
Châteaubriand	シャトウブリアン	378n
Chlodwech	クロドウェヒ	224, 230n

Cicero	シセロ	160
Clement	クレメント	175, 180
Columba, St.	セント・コロンバ	222
Comenius	コメニウス	284, 308n
Confucius	孔子	61
Cyrus the Great	キロス大王	68, 103n
Dante	ダンテ	75n, 278n
Darius I	ダリウス一世	95, 105n
Davidson	デボッドソン (本著者)	62n, 108n, 150n, 151n, 317, 327n, 377n, 378n.
Delitzsch	デリッチ	45, 63n,
Démia	デミア	277
Denzinger	デンチンガー	231
Descartes	デカルト	273, 289, 328
Deussen	ドイセン	92n
Dieterici	ディテルリチ	200n
Drummond, H.	エッチ・ドラモンド	2, 379n
Elam	エラム	103n
Emerson	エマソン	24
Erasmus	エラスムス	263
Eric of Auxerre	アウクセレのエリク	229
Eriugena	エリウヂェナ	233
Fénélon	フェネロン	307

Frederick II	フレデリック二世	245, 248
Froebel	フロエーベル	345, 349, 380n, 381n
Galilei	ガリレオ	262.
Gerbert	ゲルベルト	236, 241n
Gerhard of Cremona	クレモナのジェラアル	244
Gladstone	グラッドストーン	131
Goethe	ギョエテ	26n, 255
Grey	グレイ	383n
Gregory the Great	グレゴリイ大帝	185
Gregory Thaumaturzus	グレゴリイ・タウマツル グス	177
Grotius	グロオシウス	299
Gundissalinus	グンヂザリヌス	245
Harnack		173
Haymo	ハイモ	229
Hegel	ヘエゲル	105, 331, 378n,
Heraclitus	ヘラクライツス	152n, 172n.
Herbart	ヘルバルト	345
Herodotus	ヘロドータス	97, 104n
Hesiod	ヘシオド	149n
Hinsdale	ヒンスデエル	383n
Hogg	ホッグ	406
Homer	ホオマー	63n, 130, 149n, 150n.
Horace	ホレエス	163n

Hraban Maur	ラーバン・マウル	228, 231n
Hucbald	フクバルド	229
Hume	ヒューム	311, 328, 330
Hurxley	ハックスレイ	7, 8, 17n, 331
Ibn Gabirol	イブンガビロル	114, 217
Ibn Rushd	イブンルシド	243
Ibn Sina	イブンシナ	196
Ibn Tufail	イブントッフアイル	217
Isidore of Seville	セギユのイシドオル	187
Jeremiah	エレミア	74
Jerome	ゼローム	184
John of Salisbury	サリスベリーのジョン	239, 240n
Johnson	ジョンソン	26n
Joshua ben Gamla	ヨシウア・ベン・ガムラ	116
Josiah	ヨシア	109
Kant	カント	152, 326, 327n, 328, 333, 345
Knight	ナイト	384n
Knox	ノックス	264, 267
Kuhn	クーン	62n
La Salle	ラ・サアル	277
Leibniz	ライプニッツ	274
Lessing	レッシング	257
Liutpert	ルイトペルト	229
Locke	ロック	289, 308n, 328,

Loyola	ロヨラ	.....	269, 279n
Luther	ルーター	.....	262, 264,
Maintenon	マンテノン	.....	307
Mann, Horace	ホレエス・マン	.....	345, 362, 383n
Mansel	マンゼル	.....	331
Martianus Capella	マルチアヌス・カペラ	.....	186, 227
Melanchthon	メランヒトン	.....	264
Montaigne	モンテエヌ	.....	263, 314
Moore	モーア	.....	338
Muhammad	マホメッド	.....	193, 240n
Müller, D	ディー・ミュラー	.....	199n
Necker de Saussure	ネカー・ド・サウシウル	.....	383n
Nestorius	ネストリウス	.....	192
Newman	ニウマン	.....	379n
Notker Labeo	ノトカー・ラベオ	.....	241n
Odo of Cluny	クリュニイのオド	.....	229
Origen	オリチェン	.....	175, 177, 180, 181n
Orosius	オロシウス	.....	249
Pantaenus	バンティヌス	.....	181n
Paschasius Ratpert	バシアシウス・ラトペルト	...	229
Patrick, St	セント・バトリック	...	222
Pestalozzi	ペスタロッチ	.....	341, 345, 379n
Peter the Lombard	ロムバード人ピーター	.....	26n, 239, 242n
Peter the Venerable	尊者ピーター	.....	244

Philo	フィロ	.....	171
Phoenix	フェニックス	.....	128
Plato	プラト	.....	144, 146, 152n, 242n
Plotinus	プロチヌス	.....	181n, 198
Porphyry	ポルフィリイ	.....	197, 237, 242n
Praeconius Stilo	プリコニウス・スチロ	.....	159
Prometheus	プロメセウス	.....	34n
Protagoras	プロタゴラス	.....	142, 328
Quintilian	クィンチリアン	.....	160
Rabelais	ラブレエ	.....	263
Rogers	ロオヂャース	.....	309
Rollin	ロラン	.....	307
Roscellinus	ロセリヌス	.....	236
Rosmini-Serbatl	ロスミニ・セルバチ	.....	345, 355, 382n, 385
Rousseau	ルソウ	...	312, 326n, 330, 331, 333, 335, 378n
Sargon	サルゴン	.....	103n
Schelling	シェリング	.....	331
Schiller	シラー	.....	418n
Schürer	シュラー	.....	121n
Scott	スコット	.....	355
Servatus Lupus,	セルヴァツス・ルプス	.....	229
Sévigné	セヴィニエ	.....	307
Shakespeare	シェークスピア	.....	18n, 308n

Shalmanezer シャルマネゼル.....	93
Sidonius シドニウス.....	190n
Socrates ソクラテイス.....	142, 151n, 172n, 328
Spencer スペンサー.....	1, 331, 384n
Spenser スペンサー.....	20
Spier スピイア.....	122n
Tennyson テニスン.....	150n
Theodore of Tarsus タルサスのテオドール.....	223
Thomas Aquinas トオマス アクイナス.....	240, 258
Turgot チュルゴオ.....	385
Tylor タイラー.....	18n,
Varro ヴァロオ.....	160
Vinci, Lionardo da レオナルド・ダ・ヴィンチ... ..	281
Voltaire ヴォルテエル.....	274, 313, 330
Walafried Srabo フラフリイド スラボ.....	229
Washington ワシントン.....	419
Werembert ウェレンベルト.....	229
West ウェスト.....	231n
Wolf ウォルフ.....	328
Wynfrith キンフリス.....	222
Xenophon クセノフォン.....	97
Zarathushtra ツァラツストラ.....	95, 104n
Zwingli ツキングリ.....	268

## 附録人名索引

(a b c 順)

Abélard アベラアル.....	20
Aristoteles アリストテレエス.....	11, 22
Bacon ベエコン.....	11
Bernard ベルナアル.....	30
Brown ブラウン.....	11
Byke バイク.....	17
Châteaubriand シヤトウブリアン.....	29
Davidson デキッドソン.....	2
Erdmann エルドマン.....	17
Freeman フリーマン.....	15
Fulbert フェールベエル.....	24, 25
Goethe ギョエテ.....	11, 16
Guillaume ギョーム.....	20, 21, 22
Graves グレエヴス.....	4
Hegel ヘエゲル.....	17
Heinze ハインツェ.....	17
Heloïse エロイズ.....	23
Henderson ヘンダーソン.....	11, 13
Herder ヘルダー.....	11

世界教育思想史

John of Salisbury	ジョン・サリスベリー	.....	29
Kant	カント	.....	11
Louis le Gros	ルイ・ル・グロ	.....	27
Lowell	ロオウエル	.....	11
Martineau	マアティノオ	.....	15
Marx	マルクス	.....	7
Plato	プラト	.....	22
Roscellinus	ロセラン	.....	20, 21
Rosmini-Serbati	ロスマニ・セルバチ	.....	3
Rousseau	ルソウ	.....	4
Schwegler	シュウエグラー	.....	16
Tennyson	テニスン	.....	11
Windelband	ウィンデルバンド	.....	17
Zeller	ツェラー	.....	17



大正十一年八月五日印刷  
大正十一年九月十日發行

世界教育思想史 全

著者 小林澄兄

東京市麹町區內幸町一丁目六番地

金港堂書籍株式會社

發行者兼印刷者

代表者 原亮一郎

不許複製

定價金參圓

發賣所

東京市麹町區內幸町一丁目

振替貯金口座  
東京八八一五番

金港堂書籍株式會社

東洋印刷株式會社發行

~~25/5~~ 391.2  
~~24~~ D46

終

